

Russ Hartman

荒野の放浪（Ⅰ）

Vol. 96 No.1

2020年1月-3月

目次

1. 神の選ばれた指導者	5
2. 救出のメッセージ	10
3. 頑なさ、誇りの実	15
4. エジプトの災い	20
5. 過越	26
6. エジプトを去る	31
7. 紅海を渡る	36
8. メラとエリムでの教訓	41
9. 天からのパン	46
10. 神はご自分の民のために備えられる	52
11. エテロの訪問	57
12. 神がご自分の民に語られる	62
13. 防壁	67

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

セブンスデーアドベンチスト改革運動世界総会安息日学校部 (P.O.Box 7240
Roanoke, Virginia 24019-0240, U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.96, No.1

編集&発行:
SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607-1

TEL : (0494) 22-0465

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
sdarm.shomaru@gmail.com

イラスト : Good Salt on the front cover; Map Resources on pp. 4, 25, 72; Adobe Stock on pp. 51, 72.

まえがき

「イスラエルの荒野生活の歴史は、世の終わりの神のイスラエル人の益のために記録された。」(人類のあけぼの上巻 338)

「昔のイスラエルのつぶやきと彼らの反逆的な不満、また彼らの利益のために行われた力強い奇跡や、彼らの偶像礼拝や忘恩の刑罰は同様にわたしたちの益のために記録された。昔のイスラエルの例は神の民への警告として伝えられた。それは神の民が不信を避け、このお方のみ怒りを免れるためである。もしヘブル人の悪が聖なる記録から省略され、彼らの徳だけが記録されていたら、彼らの歴史はその歴史が教えている教訓をわたしたちに教えることができないであろう。」(教会への証 4 巻 11)

わたしたちが二部のシリーズからなる「荒野の放浪」の前半を始めるにあたり、主な焦点は次になります。モーセの誕生と出エジプトの移動を導くための準備、エジプトの災い、エジプトのくびきからのイスラエルの救出、イスラエルのシナイへの到着、そして律法の受領。わたしたちは不信とその壊滅的な結果、また忠実とその祝福された報いの両方の例に行き会うでしょう。神の警告を拒否した恐ろしい結果も、神のみ言葉を信じてそれに従って行動することを選ぶ人々に臨む祝福をみていきます。

多くのイスラエル人はエジプトの感化を携えていました。体はエジプトから出ていましたが、エジプトの習慣や思考様式の多くを持ってきたのです。わたしたちもまた霊的なエジプト、すなわち世から出るように呼び出されています。わたしたちもまた、神に従うという契約を結びながら、なお世と同じように行動し、考えるかもしれません。これらの教訓を研究するとき、完全に神に従う自発的な心を持つことができますように。

「もし多くのイスラエル人が、これほどまでに墮落せず、また、エジプトを離れることをきらわなかったならば、モーセの働きは、はるかにやさしかったことであろう。」(人類のあけぼの上巻 298)

しかしながら、イスラエル人の中には、エジプトの奴隷生活中、ずっと主の礼拝を守り続けていた人々が少数ながらいた。」(同上 296)

モーセの両親は、これらのわずかな忠実な者の中にいました。彼の母親は神を恐れる女性で、自分の息子をどのように育てるべきかを知っていました。「モーセのその後の全生涯、イスラエルの指導者として果たした大事業は、クリスチャンの母親の働きの重要性を証明している。」(同上 278)

神がわたしたちを助けて下さり、イスラエルの過ちから学ぶことができますように。わたしたちもまた、彼らの成功から学び、いかなる代価を払おうと神に従うわずかな忠実な者のうちにいる者となりますように。

世界総会安息日学校支部

第一献金

ブラジルのアマゾン (ARAM) フィールド本部のために

アマゾナスとロライマは北ブラジルにある二つの州であり、興味深い特徴が多くあります。ロライマはおよそ 23 万キロメートルに及び、その 1 平方キロメートルあたり 2,25 人という国の中で最も低い人口密度となっています。その首都ボア・ビスタは、ブラジルの中で完全に北半球に入っている唯一の首都です。この州の経済は大きく商品とサービス業に依存しています。観光はこの地域で急速に成長しており、特にロライマ山は顕著です。



アマゾナスは大きな州で、160 万平方キロメートルあります。それもまたおよそ 400 万人という人口を誇り、その 80%が首都圏で生活しています。その首都マナウスは北ブラジルのうち最も人口が多く、およそ 180 万人の住人がいます。この州にはアマゾン川が流れており、その川は国際的に世界最大の水量で知られています。

この地域に福音が伝えられたのは文書伝道者の一団がマナウスに到着した時でした。この地域で始まった働きはロライマとアマゾンでのフィールド (ARAM) へと発展し、200 人の教会員がいます。これらの兄弟たちのほとんどは家庭農業に支えられており、ほとんど資金がありません。彼らの最も使いやすい交通手段はカヌー、ボート、あるいは船で、危険な時期には消費の激しい高価な手段になります。国の中央への旅行は飛行機でなければなりません。これらがみな孤立感を生じさせます。

ARAM フィールドは最近創設されました。そしてマナウス教会に本部が設立されました。これは 40 年以上前に建設された宮です。このために、建物は緊急に改築を必要としています。新しいトイレ、青少年クラスのための部屋、台所、食堂、そして新しい牧師の家を増築する必要があります。いくつかの事務室は現在の構造の中に合わせなくてはなりませんでした。

この事業は緊急に必要とされていますが、わたしたちの資金はわずかです。ですから、この要望をもって兄弟がたにお願いします。もし今日みなさんが惜しみなく寛大に献金して下さいなら、主は豊かに皆さんに報いて下さるでしょう。

北ブラジル連合 ARAM フィールドの皆さんの兄弟より

神の選ばれた指導者

「信仰によって、モーセは、成人したとき、パロの娘の子と言われることを拒み、罪のはかない歓楽にふけるよりは、むしろ神の民と共に虐待されることを選び」(ヘブル 11:24, 25)

「モーセの強さは、あらゆる力の源、万軍の主なる神とのつながりであった。彼はすべての地上の誘惑に対して気高く超越し、みずから全く神に信頼している。彼は自分を主のものであると考えた。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 1 巻 1098)

参考文献： 人類のあけぼの上巻 273-285

日曜日

12月29日

1. サタンが神のご目的をくじこうとする

- a. エジプトに住むイスラエルの子らが、急速に数の多い人種となりつつあったとき、パロはいつか彼らが自分に反逆することを恐れて、何をしようとしたか (出エジプト記 1:15-17, 22)。

「王と側近たちは、きびしい労役をもってイスラエルびとを苦しめ、その数を減らし、彼らの独立精神を粉碎しようとはかった。しかし、この計画の実行に失敗するや、彼らはもっと残忍な手段をとった。もしヘブルの男子が生まれたらその場で殺せという命令が助産婦に発せられた。彼らは職務上、この命令を実行できる立場にあった。サタンがこのことの扇動者であった。サタンは、イスラエルびとの中から救済者があらわれることを知っていて、王を動かしてヘブルの男子を殺してしまえば、神の計画をざせつできると考えた。しかし、助産婦たちは神を恐れて、残忍な王の命令に従わなかった。主は、彼女たちの行動を承認し、祝福をお与えになった。王は、自分の計画が失敗したので非常に怒り、命令をもっと急速で広範囲に実施することを命じた。」(人類のあけぼの上巻 275)

2. 指導者を準備する

a. モーセの嗣業は何でしたか (出エジプト記 2:1; 6:20)。

「〔出エジプト記 1:22 引用〕。この命令が完全に実施されていたとき、神を敬うレビの部族のイスラエルびと、アムラムと、妻ヨケベテの間に男の子が生まれた。その赤子は『美しい』男の子であつた。両親は、イスラエルの救いの日が近いこと、また神は、その民のために解放者をお立てになることを信じて、この幼子を殺さない決心をした。」(人類のあけぼの上巻 275)

b. モーセの母親は彼の命を救うために何をしましたか (出エジプト記 2:2-4)。

c. 神は神が計画された救出者を滅ぼそうとするサタンの計画をどのように支配されましたか (出エジプト記 2:5-10)。モーセの母親が自分の息子を神のために訓練するという神聖な信任を果たしたことから、わたしたちは何を学ぶことができますか。

「神は母親の祈りを聞かれた。彼女の信仰は報われた。今やヨケベテは深く感謝して、この安全で幸福な任務にとりかかった。彼女は、その子を神のために教育する機会を忠実に活用した。彼女は、この子が何か大いなる働きのために守られたことを確信した。やがては、王宮の母親に彼を返さなければならないこと、そして、それは彼を神から引き離すような環境であることを彼女は知っていた。そのために、彼女はほかの子供たちよりも、もっと熱心に注意深く教育をほどこすようになった。彼女は、彼の心に神を恐れ、真理と正義とを愛するように教えこむことに力を入れ、あらゆる腐敗した影響から彼が守られることをひたすら祈り求めた。彼女は偶像礼拝の罪とむなしさを彼に示した。そして、彼が小さいときから彼の祈りを聞き、どんな危急の場合にも助けてくださるただひとりの生きた神を拝し、祈るように教えた。……

彼は母親のそばで学んだ教訓を忘れることができなかった。それらの教訓は、高慢と無神論、また、華麗な宮殿の中に暗躍する罪惡を防ぐ盾となった。」(同上 277, 278)

「家庭に生まれた一人びとりの子は聖なる委託物である。神は親に次のように言われる、『この子をとり、わたしのために育てなさい。わが名の誉れとなり、わが祝福が世に流れる通路となるように。』」(両親、教師、生徒への勧告 145)

3. エジプトの教育

- a. 家庭における初等教育に続いて、モーセの教育の第二段階には何が含まれていましたか (使徒行伝 7:22)。なぜ神は彼をパロの王宮へおかれたと思いますか。

「ヨケベデのむすこモーセは、ゴセンの貧しい家庭から、パロの宮殿にひきとられ、エジプト王女のいとし子として 迎えられた。モーセは、エジプトの学校で、最高の文武の教育をうけた。モーセのりっぱな容貌や体格から受ける容姿の大きな魅力、教養をつんだ知性と貴公子然たる態度、武官としての盛名—そうしたことのために彼はエジプト国民の誇りとなった。エジプト王は、祭司職の一員でもあったので、モーセは、異教の神の礼拝にあずかることを拒んではいたが、エジプトの宗教の奥義のいっさいを伝授された。」(教育 59)

- b. 両親から受けた初期の忠実な訓練のために、モーセは自分の生涯で後になってどのような選択をするよう導かれましたか (ヘブル 11:24-26)。

「モーセは、地上の偉大な人物の中で傑出した者となり、地上の最も華麗な王国の宮殿の中でも一段と輝き、王国の権力を示す笏を持って支配するのにふさわしい者であった。彼の知的な偉大さは、各時代の偉人よりもはるかにすぐれていた。歴史家、詩人、哲学者、軍隊の指揮官、また、立法官として彼と並び得る者はなかった。しかし、彼は、こうした世界を前において、『罪のはかない歓楽にふけるよりは、むしろ神の民と共に虐待されることを選び』富、偉大さ、名誉などを得ることができる有望な将来を断固として拒む道徳的能力をもっていた。

モーセは、神が謙虚で従順なしもべにお与えになる最後の報酬について教えられた。であるから、それに比較すれば、世的な利益などはまったく無価値なものになってしまうのであった。彼らは、パロの壮麗な宮殿や王座をさし示して、モーセの心を引きつけようとした。しかし神を度外視した罪の快樂が、その堂々たる宮廷にあることを彼は知っていた。彼は、華麗な宮殿や王冠のむこうの、罪に汚れていないみ国において、至高者の聖徒たちに与えられる大きな栄光を仰いでいた。彼は、信仰によって、天の王が勝利者の頭におかれる朽ちない冠をみていた。このような信仰が、モーセに、地上の偉大な人々を離れて、貧しい軽べつされた民族に加わり、罪に仕えるよりは神に従うことを選ばせたのである。」(人類のあけぼの上巻 280, 281)

4. 王子から羊飼いに

- a. モーセが自分自身の方法でイスラエルのための神のご計画を実行しようとしたとき、その結果は何でしたか (出エジプト記 2:11-15; 使徒行伝 7:23-29)。

「モーセはエジプトの知恵における自分の教育がイスラエルを奴隷のくびきから導く資格を十分に与えるものと考えていた。彼は軍隊の将となるために必要な事柄をすべて学ばなかったであろうか。彼は地における最高の学校の優位性を持っていなかったであろうか。しかり、彼は自分がその民を救出できると感じた。彼は彼らの過ちを矯正することによって彼らの好意を得て、自分の働きを開始しようとした。彼はイスラエル人の一人に無理強いしていたエジプト人を殺した。これによって、彼は始めから人殺しである者の精神を表し、憐れみと愛とやさしさの神を表すのにふさわしくないことを表した。

モーセは始めの試みにおいて悲惨な失敗を犯した。そして、他の多くの人々のように、彼は直ちに神への信頼を失い、自分に定められた働きに背を向けた。彼はパロの怒りから逃げた。彼はエジプト人の命を奪うという自分の恐ろしい罪のゆえに、神はご自分の民の残酷な奴隷のくびきから彼らを救出するという働きに彼が少しでも携わることを許されないであろうと結論づけた。しかし、主がこれらのことを許されたのは、モーセに主人なるお方のために働くすべての働き人がこのお方のみ事業において成功する働き人になるためにもつ必要のある優しさ、善、そして寛容を教えることができるためであった。」(両親、教師、生徒への勧告 407)

「モーセが考えたように、戦争によって民族を解放しようとすることは、神のみこころではなかった。それは、神だけに栄光を帰すようになるために、神の大いなる力によって実現するはずであった。しかしこうした性急なモーセの行動も、神の目的達成のために神が支配しておられたのである。モーセは、まだ、この大いなる仕事に当たる備えができていなかった。彼もまた、アブラハムやヤコブが学んだのと同じ信仰の教訓、すなわち神の約束の成就のためには、人間的な知恵や力にたよらず、神の力にたよることを学ぶ必要があった。」(人類のあけぼの上巻 282)

- b. モーセはどのようにミデアンの地で家庭を見いだしましたか。だれが彼の家族になりましたか (出エジプト記 2:16-22; 18:2-4)。
- c. ミデアンの地において、モーセの職業は何でしたか (出エジプト記 3:1)。

5. 困難という学校での訓練

- a. 荒野での訓練の年月によって、どれほど大きな変化が起きたかを示すどのようなことが、後になってモーセについて言われましたか（民数記 12:3）。モーセは荒野でどのような教訓を学びましたか。

「モーセが王の孫として受けた教育は非常に徹底していた。エジプト人が知恵だと理解していた通りにモーセを賢人にするよう意図されたことは何一つなおざりにされなかった。この教育はモーセにとって多くの面で助けとなった。しかし、彼の生涯の働きにふさわしくなるための最も価値ある部分は、羊飼いとして雇われていた間に受けた部分であった。彼が自分の群を山間の野を通じて、また谷間の牧場へと導いたとき、自然の神は彼に最高にして最も崇高な知恵をお教えた。自然という学校でキリストご自身を教師として、彼は謙遜、柔和、信仰、信頼という教訓、また慎ましい生活様式についての教訓、そして彼の魂を神へより近く結びつける一切のことを熟考し、また学んだ。山々の孤独な場所で、彼は王の宮殿における彼のすべての指導が、彼に与えることのできなかったこと、すなわち単純に揺るがない信仰と主を信じる絶えざる信頼を学んだ。」（クリスチャン教育の基礎 342）

「モーセは、自己否定と困難という学校で、忍耐を学び、自分の感情をおさえることを学ぶべきであった。また、モーセは、賢明に人を支配することができるようになる前に、まず、彼自身が服従する訓練を受けなければならなかった。イスラエルびとに神のみこころを伝えることができるようになる前に、彼自身の心が全く神と調和していなければならなかった。モーセは、自分の経験から、援助を求めるすべてのものを、父親のようにめんどろをみる準備が必要であった。」（人類のあけぼの上巻 282, 283）

個人的な復習問題

1. サタンはどのようにしてイスラエル人の中から救出者が起こされるべきことを知りましたか。また彼はどのようにしてこれを妨害しようとしたか。
2. モーセの母親は、どのように偉大な運命を持っていると確信していた子供を訓練しましたか。今日、子供たちはどの目的のために訓練されるべきですか。
3. 何がモーセに世の利益よりも貧困を選ばせましたか。
4. なぜモーセは荒野で再教育を受けなければならなかったのですか。
5. モーセは羊飼いととしての年月において、何を学びましたか。わたしたちは自分自身の生活の中で経験する試練から、どのようなことを学ぶことができますか。

救出のメッセージ

「あなたはそのつえを手執り、それをもって、しるしを行いなさい。」(出エジプト記 4:17)

「イスラエルの救済のときがきた。しかし、神のみこころは、人間の自尊心を傷つけるような方法でなされるべきであった。救済者は、手につえだけを持ち、卑しい羊飼いとして出て行くのであった。しかし、神はそのつえを神の力の象徴にしようとなさった。」(人類のあけぼの上巻 285)

参考文献： 人類のあけぼの上巻 285-292

日曜日

1月5日

1. 神からの伝達

- a. モーセがエテロの群の世話をしていた間に、エジプトでは何が起きましたか (出エジプト記 2:23-25)。
- b. 燃える柴のところでモーセはどのような経験をしましたか (出エジプト記 3:1-5)。
- c. この経験から、わたしたちはどの重要な教訓を学ぶことができますか (詩篇 89:7)。

「神のみ前にくるすべての者の態度は、けんそんで敬神深いものでなければならぬ。われわれは、イエスのみ名によって、確信を持ってみ前に出ることができるが、あたかも神がわれわれと同等であられるかのように、無遠慮な態度で近づくべきではない。近づくことのできない光の中に住み、偉大で、全能であられる聖なる神にむかって、あたかも同等か、あるいは目下のものに話しかけるような言葉を用いる人がある。また、神の家の中において、地上の王たちの謁見室では決してしないような不謹慎な態度をとる人がある。これらの人々は、自分が今、セラピムたちが賛美をささげ、み使いたちもそのみ前にあつて翼をもって顔をおおう神のみ前にあるということをおぼえていなければならない。」(人類のあけぼの上巻 286)

2. 神がモーセを召される

- a. 主はご自分の民のために、何をしようとしておられましたか(出エジプト記 3:7-9)。
- b. モーセはこれをなし遂げるために、どのように神のご計画に適合していましたか(出エジプト記 3:10; 使徒行伝 7:34, 35)。
- c. モーセはどのように神の召しに答え、主は彼に何を悟って欲しいと思われましたか(出エジプト記 3:11-15)。

「モーセはこの命令に驚き、恐れ、しりごみしながら、『わたしは、いったい何者でしょう。わたしがパロのところへ行って、イスラエルの人々をエジプトから導き出すのでしょうか』と言った。すると、『わたしは必ずあなたと共にいる。これが、わたしのあなたをつかわしたしるしである。あなたが民をエジプトから導き出したとき、あなたがたはこの山で神に仕えるであろう』と神は答えられた(出エジプト 3:11, 12)。

モーセは、やがて直面する多くの困苦のことを考えた。そして、盲目的で、無知で、不信仰な自分の民のことを考えた。しかもその多くは、神についての知識をまったく持っていないのである。モーセは神に言った。『わたしがイスラエルの人々のところへ行って、彼らに「あなたがたの先祖の神が、わたしをあなたがたのところへつかわされました」と言うとき、彼らが「その名はなんというのですか」とわたしに聞くならば、なんと答えましょうか』(出エジプト 3:13)。

神の答えは、『わたしは、有つて有る者。』『イスラエルの人々にこう言いなさい、「わたしは有る」というかたが、わたしをあなたがたのところへつかわされました」というのであった』(出エジプト 3:14)。(人類のあけぼの上巻 286, 288)

「モーセは、エジプトからイスラエルを救出するために、このような方法で主が自分をお用いになるとは期待していなかった。彼は戦争によってなされるだろうと思っていた。そのため主が彼にパロの前に立ち、またこのお方のみ名によりイスラエルを去らせるように命じなければならないことを知らされたとき、彼はこの任務に尻込みした。

彼がその前に姿を現したパロは、彼が死ななければならないと命じた者ではなかった。その王は死んでいた。そして別の王が統治の手綱を握っていた。ほとんどすべてのエジプトの王がパロという名前で呼ばれていた。モーセはイスラエルの子らの将として先頭に立ち、エジプト人に対して戦争をする方を選んだことであろう。しかし、これは神のご計画ではなかった。彼は民の前で大いなるものとされ、そして彼らだけではなく、エジプト人にも、生ける神がおられ、このお方には救う力も滅ぼす力もあることをお教えになるのであった。」(霊的賜物 3 巻 189, 190)

3. 神がモーセに保証される

- a. モーセはイスラエルの長老たちにどのメッセージを伝えなければなりませんでしたか (出エジプト記 3:16-20)。
- b. 神は、ご自分の民がエジプトを空手で去ることはないと言われたそのみ約束を、どのように果たそうとしておられましたか (出エジプト記 3:21, 22)。

「エジプト人は、イスラエルびとに不当の労役を強制して富を蓄積した。それで、イスラエルびとが新しい家郷にむかって出発するに際して、長年の労働の報酬を求めることは当然の権利であった。そこで彼らは、値うちのある運びやすいものを求めることになった。神は、エジプト人がイスラエルびとに好意を示すように導かれた。イスラエルびとの救済のためになされる偉大な奇跡は、圧迫者たちの心に恐怖を起こさせ、奴隷たちの要求を彼らがかなえるのであった。」(人類のあけぼの上巻 289)

- c. モーセは神の召しを受け入れるのに気が進まなかったため、主はご自分のみ摂理についてさらにどの証拠をお与えになりましたか (出エジプト記 4:1-9)。わたしたちは今日、神の召しにどのように応じるべきですか。

「モーセは、自分の前にある多くの困難に打ち勝てそうもないと思った。神が、たしかにモーセをつかわされたというどんな証拠を、人々に示すことができるだろうか。モーセは言った。『しかし、彼らはわたしを信ぜず、またわたしの声に聞き従わないで言うでしょう、「主はあなたに現れなかった」と』(出エジプト 4:1)。そのとき、彼自身にもはっきりとわかるような確実な証拠を示された。彼はつえを地に投げるように命じられ、そうすると『へびになったので、モーセはその前から身を避けた』。彼がそれをつかまえると、今度は手のなかでつえとなった。彼はまた、手をふところに入れるように命じられたので、その通りにしたところ『それを出すと、手は、らい病にかかって、雪のように白くなっていた』(出エジプト 4:3, 6)。また、手をふところにもどすように言われてもどすと、回復して、もとの肉のようになっていた。主は、これらのしるしによって、モーセに確証を与え、パロと同様に、イスラエルびとにも、エジプトの王よりも偉大な人間がここに現われたことを悟らせようとなった。」(人類のあけぼの上巻 289)

「心に秘めた計画や親しい友との交わりを捨てて、神の摂理の召しに応じる者はだれであろうか。キリストのための損は利益であると考えて、新しい任務を受け、働きが始められていない地に行き、堅い決心のもとに喜んで神のみわざに従事するのはだれであろうか。」(同上 124)

4. 神はモーセを励まし続けられる

- a. 何が、モーセがなお神の召しに従うことに気が進まなかったことを示していますか (出エジプト記 4:10-13)。

「しかし、神のしもべモーセは、自分の前にある不思議な驚くべき働きのことを思っ
て圧倒されていた。彼は、苦しんで恐怖をいだき、話がよくできないことを口実
にして、嘆願した。…彼は、長い間、エジプト人と交わっていなかったもので、以前
のようにエジプトの言葉をはっきり知っておらず、以前のようにすぐに言葉が使える
うもなかった。…

最初のうちは、このような弁解もけんそんとおくびょうから出たものであった。
しかし、主があらゆる困難を取り除き最後の成功を与えると約束されているのに、
それでもなおしりごみして、自己の不適任をかこつことは神への不信を示すもので
あった。それは、偉大な事業に彼を召された神に、彼をその働きに適した者とする
力がないか、それとも、神は人選を誤られたかということを暗にほめかしていた。」
(人類のあけぼの上 290)

- b. 神が忍耐強くご自分の僕を励まそうとして、モーセにどのような助けを提供なさ
いましたか (出エジプト記 4:14-17)。神は今日、どのようにご自分の民を励まし
れますか。

「[神の教会員は]、自分たちの携わっている働きが、主がご自分の印章を押され
た者であることを自覚しよう。…

このお方はわたしたちに、自分たちのくちびるにご自分の聖なる接触を感じつつ、
ご自分がお与えになった言葉を語るために出て行くようお命じになる。」(神の驚く
べき恵み 275)

- c. 神はモーセにさらにどのような保証を提供なさいましたか (出エジプト記 4:18-
23)。

「人間は、神がお与えになる責任を受け入れ、全力を尽くして正しく遂行しようと
願うときに、力と能力とを受けけるものである。たとえ、その地位がどんなに低く、そ
の能力にかぎりがあったとしても、神の力に信頼し、その働きを忠実に果たそうと
するものは、真に偉大なものになるのである。もしも、モーセが自分の力と知恵に
頼り、大きな責任を自分から進んで負ったとすれば、彼はそのような働きに全然不
適当であることを示したことであろう。人間が自分の弱さを認めるという事実は、少
なくとも彼が、与えられた仕事の大きさを認識し、神を彼の力、助言者とするとい
うことの証拠である。」(人類のあけぼの上巻 291)

5. モーセがエジプトに戻る

- a. モーセが神の召しを受け入れて、エジプトへ行ったとき、道中何が起こりましたか（出エジプト記 4:24-26）。この出来事から、どのような厳粛な類似点を引き出すことができますか。

「モーセは、イスラエルの民に約束された神の祝福に、その子があずかるための条件を、まだ実行していなかった。選ばれた指導者が、このようなことを怠るならば、人々の間で神の戒めの力を弱めることになる。……モーセは、パロに対する任務を帯びて、非常に危険な立場におかれることになった。彼の生命は、聖なる天使たちに守護されていたからこそ安全であった。しかし、当然果たすべき義務を怠っていては安全ではなかった。なぜなら、彼は、神の天使たちに保護されることができないからであった。

キリスト再臨直前の悩みの時にも、義人たちは天のみ使いたちの奉仕によって守られるのである。しかし、神の律法を犯すものは安全ではない。天使たちは、神の戒めの一つでも無視する者を保護することはできないのである。（人類のあけぼの上巻 292）

- b. モーセとアロンがエジプトに入って長老たちを集めたとき、民は救出のメッセージに対して、どのように反応しましたか（出エジプト記 4:29-31）。

個人的な復習問題

1. 燃える柴の所でのモーセの記述は、わたしたちが祈りや聖所において神に近づくべき態度に関して、何を教えますか。
2. モーセは神がエジプトからイスラエルをどのように救出なさることを期待しましたか。なぜ神はこの方法ではイスラエルを救出なさらなかったのですか。
3. なぜわたしたちは時に、神の民に働く神の召しを受け入れるのに気が進まないのですか。
4. 神に仕える人々において真の偉大さのしるしは何ですか。
5. わたしたちの前にある悩みの時において、神の規則のたった一つを無視する人々は、何を喪失しますか。

頑なさ、誇りの実

「まちがってはいけない、神は侮られるようなかたではない。人は自分のまいたものを、刈り取ることになる。」(ガラテヤ 6:7)

「パロは頑なさをまいて、頑なさを刈り取った。彼は自分自身でこの種を土にまいたのである。とうもろこしの粒の成長に神が介入なさる必要がないように、神が新しい力でその成長に介入する必要はなかった。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 11 巻 1100)

参考文献： 人類のあけぼの上巻 293-303

日曜日

1月12日

1. パロが神に反抗する

- a. モーセとアロンがエジプトの王の前に来たとき、彼らは彼にどのような要求をしましたか。また彼はどのように答えましたか (出エジプト記 5:1-3)。
- b. パロの誇りと反逆から、わたしたちはどの警告を受け取るべきですか (ガラテヤ 6:7; 箴言 11:2)。

「明白に述べられている神のみ旨よりも自分自身の考えを高める人々は、パロと同じように、『主とはいったい何者か。わたしがその声に従ってイスラエルを去らせなければならないのか』と言っているのである。光を拒むごとに、心は頑なになり、理解は暗くなる。こうして人は正しいことと悪とを識別するのがますます難しくなり、神のみ旨に抵抗するのにますます大胆になる。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 11 巻 1100)

「天から送られたメッセージによってすべての人が警告を受けるようにしよう。すなわち、だれでも自分自身のやり方と自分自身の判断を最上のものとして高めるとき、その人はサタンの管轄下に入り、彼の精神と彼の方法が大欺瞞者に一致するまで、少しずつ彼によって目隠しのまま導かれ、ついに彼の思いはすっかり魔力の感化の下におかれるのである。へびは人の上に目をしっかりと留め続け、そのわなから逃れる力がなくなるまで彼に魔法をかけるのである。」(出版伝道 175)

2. パロはさらに大きな重荷を加える

- a. 王はモーセとアロンにどのような非難をしましたか(出エジプト記 5:4, 5)。彼はどのような「休息」について言及していたのですか。

「イスラエル人は、奴隷になっている間に、神の律法の知識をかなり見失い、その戒めから離れていた。安息日は、一般に無視され、作業を監督する者が不当に彼らを働かせたので、安息日が守れないことは明白であった。しかし、モーセは、神に従うことが救いの第一条件であることを、神の民に明らかに示した。こうして彼らが、再び安息日を守ろうとしていることが、圧制者たちに知られるようになった。」(人類のあけぼの上巻 294)

- b. イスラエルをエジプトから導き出されることにおいて、神のご目的は何でしたか(詩篇 105:43-45)。これはわたしたちのために何を暗示していますか。

「安息日は、イスラエルがエジプトから出て地上のカナンに入るときに彼らを区別するしるしであったように、今それは、神の民が世から出て天の休息に入ろうとするとき、神の民を区別するしるしである。安息日は神とその民の間に存在する関係のしるし、このお方の律法を尊ぶしるしである。それはこのお方の忠実な臣民と違反者との間を区別する。…創造主としての神のしるしとして世に与えられた安息日はまた、聖化するお方としての神のしるしでもある。万物を創造された力は、魂をこのお方ご自身のみかたちに再創造する力である。」(教会への証 6 巻 349, 350)

「神の律法がこのように生活において具現化されるとき、世でさえ、神を愛し、恐れ、仕える人々が地上のどの民にも勝っている優位性を認めるようになる。」(同上 12)

- c. パロとの会見の結果は何でしたか(出エジプト記 5:6-14)。

「十分に警戒しはじめた王は、イスラエル人が王の仕事に反逆を企てるのではないかと疑った。不満は、怠惰の結果起こった。王は、危険な陰謀を企てる時間が彼らにないようにしなければならないと考えた。そこで王は、直ちに彼らの束縛をきびしくし、独立精神をくたく手段に出た。」(人類のあけぼの上巻 294)

3. 神がイスラエルの信仰を試される

- a. イスラエルの子らの役人たちはモーセとアロンのもとへ、どの非難を持ってやってきましたか (出エジプト記 5:19-21)。
- b. なぜ主はイスラエルを直ちに救出されなかったのですか (使徒行伝 14:22)。

「ヘブル人は、特別に信仰の試練や、真の苦しみ、困難に会わずに自由を獲得することを期待した。しかし、彼らには、まだ、救われる準備ができていなかった。彼らには、神に対する信仰がほとんどなかった。また、神が彼らのために働くのに最適だと思われるときまで、忍んで苦しみに耐える気持ちがなかった。異国に移住することに付随した困難に会うよりは、奴隷のままでいたほうがよいと思う者が多かった。また、エジプト人の生活になじんでしまった者は、エジプトに定住することを選んだ。そのため、主はパロの前で最初に力をあらわされたときに、彼らをお救いにならなかった。神は、いろいろのできごとを支配して、エジプト王の残酷な精神がつのるのを許し、それとともに、ご自身を民にあらわそうとなされた。人々は、神の義と力と愛とを見ることによって、エジプトを離れ、神の奉仕に献身するようになるのであった。もし多くのイスラエル人が、これほどまでに墮落せず、また、エジプトを離れることをきらわなかったならば、モーセの働きは、はるかにやさしかったことであろう。」(人類のあけぼの上巻 298)

「放縦、偶像礼拝、暴飲暴食、そして粗野な悪徳の中毒になっていた。これがいつでも奴隷状態の結果である。しかし、主はご自分の民を見守っておられ、彼らの救出後に、彼らを教育された。彼らは世話をされずに放ってはおかれるようなことはなかった。」(ザン・ワーク 43)

- c. 新しい試練がイスラエルに臨んだときにモーセが主に抗議したため、主はご自分の民のために何を約束なさいましたか (出エジプト記 5:22, 23; 6:1-8)。

「わたしたちへの憐れみのうちに、〔神は〕いつもわたしたちをもっとも安易な場所におかれるわけではない。なぜなら、もしそうしたら、わたしたちは自己満足のうちに、主が必要となごきの助け主であられることを忘れてしまうからである。しかし、このお方は危急時に、わたしたちの周囲とは関係なく、ご自身をわたしたちに表し、またわたしたちの意のままである豊かな供給を見せたいと切望しておられる。そして失望や試練がわたしたちの及ぶのを許されるのは、わたしたちが自分自身の無力さを悟り、幼子が飢え渇くときに地上の親を呼び求めるように、主に呼び求めることを学ぶことができるためである。」(キリストを映して 353)

4. 民は心がくじける

- a. モーセが二度目にイスラエルの子らに語ったとき、彼らは主からのメッセージをどのように受け取りましたか(出エジプト記 6:9)。どの約束がすべてのイスラエル人にとって希望の源となるべきでしたか(創世記 15:13, 14; 50:24)。

「イスラエルの長老たちは、父祖に与えられた約束や、エジプトからの解放に関するヨセフの生前の預言をくり返して、兄弟たちの衰えがちな信仰を保とうとつとめた。それに喜んで耳を傾けて信じる者もあれば、回りの状態を見て希望をいだいこうとしない者もあった。エジプト人は、奴隷たちの間に伝わった情報を聞いて、そうした彼らの期待をちょう笑し、彼らの神の力をあなどって拒否した。エジプト人は、彼らが奴隷であることを指摘して、『もしあなたの神が正しく、あわれみに富み、エジプトの神々にまさる力を持っているなら、なぜあなたがたを自由な民にしないのですか』とののしって言った。エジプト人は、自分たち自身の状態を考えてみよと彼らに言った。エジプト人は、イスラエル人が偽りの神と呼ぶ神々を礼拝しているにもかかわらず、豊かで、強大な国民である。こうした繁栄を与え、イスラエル人を奴隷として彼らに与えたのも、この神々であると彼らは言うのであった。そして、自分たちには、主を礼拝する者を迫害し、滅亡させる能力があると誇った。パロもまた、ヘブルびとの神は、その民を彼らの手から解放することは不可能だと誇っていた。

多くのイスラエル人は、こうした言葉を聞いて希望を失った。万事がエジプト人の言う通りになるような気がした。彼らは、奴隷であった。監督が情け容赦なく命じるままに、すべて耐えていかねばならなかった。イスラエル人の子供たちは、狩り出されて殺された。そして、彼ら自身の生活も苦しかった。それでも、彼らは天の神を礼拝していた。もし、主がすべての神々よりすぐれたおかたであるなら、彼らを偶像礼拝者の奴隷にしたままほうっておかれない。神に忠実であった者たちは、彼らが奴隷生活に陥るのを主が許されたのは、イスラエルが神から離れ、異邦人と結婚し、偶像礼拝をしたためであることを知っていた。彼らは、神が間もなく圧制者のくびきを砕いてくださることを、力強く兄弟たちに語った。」(人類のあけぼの上巻 297, 298)

- b. 主が再びパロに語るようにとモーセにお命じになったとき、彼はどの論拠をもって言い逃れをしようとしたか(出エジプト記 6:10-12)。

5. 神はしるしと不思議を送られる

- a. 主がモーセにパロの所へ戻るよう励まされたとき、このお方はエジプトにおいて何を増し加えると、またエジプト人の反応はどうであろうと言われましたか（出エジプト記 7:1-5）。

「モーセは、もし、王が災いからののがれようと思えば、避けることができるように、一つ一つの災いが降される前に、それがどういう性質のもので、どういう結果になるかを説明するのであった。一つの刑罰を彼が拒むたびに、さらに激しい刑罰が続いて降り、パロの高慢な心が低くされ、ついには天地の創造者をまことの生きた神として認めるようになるのであった。……こうして、諸国の人々は、神の力を知らされて、その偉大なわざに恐れおののくのである。また、神の民は、偶像礼拝をやめて、神に純粋な礼拝をささげるようになり、神ご自身の名があがめられるのである。」（人類のあけぼの上巻 299）

- b. パロの前で、どのように神の力とサタンの力が対比されましたか（出エジプト記 7:8-12）。神のわざのにせものを作りだそうとするサタンの目的は何でしたか。

「サタンは、モーセを通してなされた神のみわざのにせものをつくり出すことによって、イスラエルの解放をさまたげると共に、その後の時代にまで影響を及ぼし、人々にキリストの奇跡を信じさせまいとした。サタンは、絶えずキリストのみわざのにせものをつくり、自分の勢力範囲を確立しようとしている。サタンは、キリストの奇跡が、人間の技巧と能力の結果であるかのように見せかけて、人々にそう思わせている。彼は、このようにして、多くの人々の心からキリストが神の子であるという信仰を失わせ、あがないの計画を通して与えられる恵み深いあわれみの招きを、人々が退けるようにしむける。」（同上 302, 303）

個人的な復習問題

1. わたしたちは時にどのようにパロと同じ誇りを示しますか。
2. どのような方法において、今日安息日は神の民を区別するしるしですか。
3. なぜそれほど多くのイスラエル人はエジプトを去ることに気が進まなかったのですか。なぜ今日わたしたちのうちそれほど多くの人が世俗的な習慣や考えを捨てるのに気が進まないのですか。
4. なぜ神はイスラエル人が奴隷になることを許されたのですか。
5. なぜサタンは神の奇跡のにせものを作りだそうとしたのですか。

エジプトの災い

「なにゆえ、あなたがたはエジプトびととパロがその心をかたくなにしたように、自分の心をかたくなにするのか。神が彼らを悩ましたので、彼らは民を行かせ、民は去ったではないか。」(サムエル記上 6:6)

「神は、人を滅ぼすようなかたではない。滅びにおちいる者は、自分で自分を滅ぼすのである。良心の警告をかえりみないものは、不信の種をまいて、必ず、その収穫を刈り取るのである。」(キリストの実物教訓 64)

参考文献： 人類のあけぼの上巻 303-313

日曜日

1月19日

1. 無意味な礼拝に対して抗議する

- a. 何が最初の災いでしたか。なぜそれが送られたのですか(出エジプト記 7:14-21)。

「エジプトのパロに災いが臨んでいる間、彼は自分の迷信的な礼拝において時間を守って川に行き、そこへ毎朝訪ねていた。そして彼は川岸に立って、水に向かって讃美と感謝を捧げ、それがなし遂げた大いなる善を詳しく述べ、水にその大いなる力を語っていた。すなわち、それがなければ自分たちは存在しないと。なぜなら、彼らの地はそれによって潤され、それが自分たちの食卓のために食物を備えたからだ。」(霊的賜物 4A 巻 54, 55)

- b. 第二の災いは何でしたか。また神はどのようにこの災いの効果を取り除くことを選ばれましたか(出エジプト記 8:2-14)。

「エジプト人は、かえるを神聖なものとしていたので殺そうとしなかった。しかし、かえるのわざわいはついに耐えられなくなった。……

主は、かえるを一瞬のうちにちに帰すことがおできになったが、そうはならなかった。それは、かえるが取り去られたのち、王と人々が、それを魔術師たちの行なう魔法の結果であるということのないためであった。かえるは死に、一か所にうず高く集められた。」(人類のあけぼの上巻 303, 304)

2. 神はご自身のものを顧みられる

- a. 主はどのように第四の災いによって影響を受ける人々のうちに区別をつけられましたか（出エジプト記 8:20-24）。

「あぶが家々を満たし、地の上に群がったので『地はあぶの群れのために害を受けた』（出エジプト記 8:24）。これらのあぶは大きく有毒で、人間や動物はそれにかまれると激しい痛みをおぼえた。この刑罰は、すでに予告されていたように、ゴセンの地には及ばなかった。」（人類のあけぼの上巻 304）

- b. 第五と第九の災いにおいて、神はさらにどのような区別をつけられましたか（出エジプト記 9:1-6; 10:22, 23）。

「もっと恐ろしい打撃が続いた。野にいるエジプトの全家畜に疫病が下った。神聖な獣も、雄牛、雌牛、羊、馬、らくだ、ろばなど労役用の家畜も殺された。ヘブルびとがその刑罰から免れることは明らかに宣言されていたので、パロがイスラエル人の家に使者を送ったところ、モーセの宣言が正しかったことが証明された。『イスラエルの人々の家畜は一頭も死ななかった』（出エジプト 9:6）。王は、それでもなお頑強に逆らった。」（同上 305）

「突然、暗黒が全国にのぞんだ。それは非常に濃い暗黒であつたので、『そのくらやみは、さわれるほどであ』った（出エジプト 10:21）。人々から光がとり去られたばかりでなく、空気もまた息がつまるようであつたので、呼吸するのも困難であつた。『三日の間、人々は互に見ることもできず、まただれもその所から立つ者もなかった。しかし、イスラエルの人々には、みな、その住む所に光があつた』（出エジプト 10:23）。太陽と月はエジプト人の礼拝の対象であつた。この不思議な暗黒の中で、エジプト人と彼らの神々は、奴隷たちのために働き出した力に打たれた』（同上 312）

- c. 主はご自分の民のためにどのような保護をすると約束されましたか（申命記 32:43; 詩篇 103:8）。この保護は、後に第九の災いの間、どのようにエジプト人にまで及びましたか。

「とはいえ、この裁きは〔第九の災いの間〕神はあわれみ深く、滅ぼすことを喜ぶかたではないということを証拠だてるものであつた。神は最後の最も恐ろしい災いを彼らの上に下す前に、人々に反省と悔い改めのときをお与えになった。」（同上）

3. 魔術師が敗北を認める

a. 第三の災いに対する魔術師たちの反応は何でしたか (出エジプト記 8:18, 19)。

「アロンが神の命令を受けて手をのべると、エジプト全国にわたって、地のちりがぶよになった。パロは、魔術師を呼び出して同じことをさせたが、彼らにはできなかった。このように神のわざはサタンのわざよりもすぐれていることが明らかにされた。魔術師たち自身も、『これは神の指です』と認めた。しかし、王はまだ動かされなかった。」(人類のあけぼの上巻 304)

b. 神ははれものの災いをどのようにもたらすように指示されましたか (出エジプト記 9:8-10)。かまどからとられた灰については、どのような意味がありましたか。

「次に、モーセは、かまどの灰をとって、『パロの目の前で天にむかって、まき散らしなさい』と命令された (出エジプト 9:8)。この行為には深い意義があった。四百年前、神はアブラハムに、彼の民が将来迫害されることを、けむっているかまどと、燃える燈火の象徴によってお示しになっていた。神は、彼らを迫害する者をさばき、捕われている人々に多くの所有物を与えて連れ出すであろうと宣言しておられた。イスラエル人は、エジプトで長い間苦難のかまどの中で苦しんできた。モーセのこの行為は、彼らにとって、神がその契約を覚えておられることと、彼らの解放の時が来たことの保証であった。」(同上 305)

c. はれものは魔術師たちにどのような効果を及ぼしましたか (出エジプト記 9:11)。

「天に向かってまかれた灰の細かい粒子が、エジプト全国にまき散らされると、それはいたる所で『人と獣に付いて、うみが出るはれもの』を生じさせた (出エジプト 9:9)。祭司と魔術師は、それまでパロのかたくなさを助長していたが、今や、その刑罰は彼らにまで及んだ。彼らは、不快きわまる苦しい病に打ちひしがれ、誇っていた力も、ただ彼らをはずかしめるだけになり、もはやイスラエルの神に立ち向かうことができなくなった。全国民は自分の身さえ守ることのできない魔術師にたよっていることの愚かさを知らされた。」(同上 306)

4. エジプト人が恐れる

- a. 第七の災いについて、神は憐れみのうちにエジプト人にどのように警告をお与えになりましたか。またその結果は何でしたか（出エジプト記 9:18-21）。

「エジプトでは、雨や雹は珍しく、予告されたようなあらしはこれまでになかった。この知らせは、すみやかに広まり、主の言葉を信じた者はみな彼らの家畜を集めたが、警告を侮った者は家畜を野に残しておいた。こうして、刑罰のうちにも神のあわれみがあらわされ人々は試みられ、どれだけの人が神のみ力のあわれを通して神を恐れるようになったかが明らかにされた。

破滅と荒廃が、滅びの天使の通ったあとを示していた。ゴセンの地だけが助かった。地は、生きた神の支配のもとにある。そして、自然は、神のみ声に従っている。だから神に従うことだけが安全であることが、エジプト人に明らかに示された。」（人類のあけぼの上巻 308, 309）

- b. 神がエジプト人に8番目のいなごの災いについて、警告なされた後に、パロの僕たちが神を恐れていることを何が示しましたか（出エジプト記 10:7）

「パロ王の重臣たちは、驚いて立ちすくんだ。国は家畜の死によってばく大な損失をこうむっていた。多くの人が雹で死んだ。森林は倒され、穀物はそこなわれた。彼らは、ヘブルびとの労力で得たものを急速にことごとく失っていた。全土は飢餓の脅威にさらされていた。つかさたちや廷臣たちは、王のまわりにつめ寄り、怒って要求した『いつまで、この人はわれわれのわなとなるのでしょうか。この人々を去らせ、彼らの神なる主に仕えさせては、どうでしょう。エジプトが滅びてしまうことに、まだ気づかれないのですか』（出エジプト 10:7）。」（同上 310）

- c. これまでに起こってきたことの後、パロはなお、全イスラエルをさらせようとしていないことをどのように示しましたか（出エジプト記 10:8-11）。

「パロは、重労働によってイスラエル人を滅ぼそうとしたのだが、今度は、彼らの幸福に深い関心をよせ、子供たちをやさしく見守っているかのように見せかけた。彼の真の目的は、男たちが帰ってくる保証として女と子供を手もとに置いておくことであつた。」（同上 311）

5. 反逆は選択である

- a. 次々と続く神の裁きがパロに及ぼした効果は何でしたか（出エジプト記 9:7, 35; 10:3）。

「神は、そのしもべを通して人間に語り、注意や警告をお与えになり、その罪を非難なさる。神は、すべての人の品性が決定される前に、そのあやまちを正す機会をお与えになるが、もしその人が正されることを拒否するならば、神のみ力は、その人の行為の傾向をほかに向けるために干渉することをしない。彼には同じことをくり返すことが容易なのである。彼は、聖霊の感化に反対して心をかたくなにしている。光を退け続けると、さらに強力な感化力であっても永続的な印象をうけつけないくなるのである。」（人類のあけぼの上巻 307）

- b. パロが神に対する反逆のうちにあることを選択したように、この罪は何に似ていますか。またこのような選択の結果はいつも何ですか（サムエル記上 15:23（前句）；箴言 28:14）。

「神の真理に対して神を恐れぬ不敵さと、愚かな無関心を示すものは、彼自身がまいいたものの収穫を刈り取っているのである。こうして、多くの者は、かつて彼らの魂をゆり動かした真理を、冷たい無関心な態度で聞くようになるのである。彼らは、真理に対して怠慢と反抗の種をまき、そのような収穫を刈り取るのである。」（同上 307）

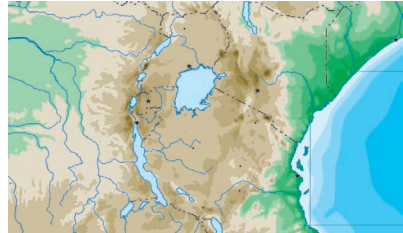
個人的な復習問題

1. エジプトの神々は、第一と第二の災いの間に、どのように天の神より劣ることを示しましたか。
2. 災いの間、神はどのようにご自分の民とまたエジプト人の両方にご自分の保護を現されましたか。
3. ふよとできものは、どのように魔術師を打ち負かしましたか。
4. エジプト人は、雹の災いが来ることにに関して、どのように神のみ言葉を信じていることを表しましたか。
5. どの二つの態度が不信に導きますか。

第一安息日献金

タンザニアミッションのために

タンザニアは広大な砂漠地域で知られる東アフリカの国です。そこにはセレンゲティ国立公園やサファリメッカ（ぞう、ライオン、ひょう、バッファロー、サイがいます）、またアフリカの最高峰の山々が数多くあるキリマンジャロ国立公園があります。沖合にはザンジバルやマフィア島があり、クジラやサメや珊瑚礁のあるマリンパークがあります。



宗教に関する統計はタンザニアで手に入れることはできませんが、宗教指導者や社会学者はイスラム教とクリスチャン団体がおよそ同じ規模で、それぞれ人口の 30 ～ 40 パーセントを数え、残りは来世信仰の実践者や土着宗教の実践者、また無宗教の人々で構成されていると見積もっています。人口は 2016 年現在で 5,557 万人でした。タンザニアの公用語はスワヒリ語と英語ですが、全部で 126 の現地語があります。

タンザニアは 30 の地域に分かれており、25 は本土に、5 はザンジバルにあります。

リバイバルと改革のメッセージは、ケニアからの兄弟を通してタンザニアに伝えられました。わたしたちはまたドイツの兄弟たちからも助けを受け、今も続いています。世界総会はタンザニアに近いルワンダ連合でスワヒリ語の安息日聖書教科を印刷しています。スワヒリ語は全東アフリカの国々を通じて使われています。

働きは今や進展し、本部を設立する必要があるところまで来ました。わたしたちは、そのためにダルエスサラームが最も良いと思っています。ダルエスサラーム、あるいは単純にダルは、かつてのミズズマとして知られ、タンザニアの以前の首都であり、また人口の最も多い都市で、地域的に重要な経済の中心地です。スワヒリ海岸に位置し、この都市は世界でも最も早く成長している都市の一つです。ダルは多文化の都市で、アフリカのタンザニア、アラブと南アジアの社会、イギリスとドイツからの国籍離脱者、カトリック、ルター派、そしてイスラム教があります。ここはわたしたちの本部として理想的で、全国のための伝道の働きを容易にします。

この世界中の安息日学校のメンバーの皆さんに、この事業のために惜しみない献金をしてくださるようお願い致します。皆さんの援助に先立ってお礼申し上げます。神様がアフリカにおけるご自分の働きに対する皆さんの親切に大いに報いて下さいますように。

タンザニアミッションの皆さんの兄弟姉妹より

過越

「イエスは彼らに言われた、よくよく言うておく。人の子の肉を食べず、また、その血を飲まなければ、あなたがたの内に命はない。」(ヨハネ 6:53)

「キリストに従う者は、彼の経験にあずかる者でなければならない。彼らは神の言葉を受け入れ、消化し、それが彼らの生活と行為を動機づける力となるようにしなければならない。彼らは、キリストの力によって彼のかたちに変えられ、神のご性質を反映しなければならない。彼らは、神の子の肉を食べ、血を飲まなければならない。そうしなければ、彼らの中に生命はない。」(人類のあけぼの上巻 319)

参考文献： 人類のあけぼの上巻 314-322

日曜日

1月26日

1. 憐れみ深い警告

- a. モーセはエジプト人からどのように思われていましたか (出エジプト記 11:3 (後句))。
- b. 10 番目の災いの前に、どの審判と、またパロとその臣下が何をすると、あらかじめ告げられていましたか (出エジプト記 11:1, 4-8; 12:12)。
- c. 10 番目の災いを送る前に、エジプト人に数多くの警告を送られたことから、神のご品性について、何を学ぶことができますか (ペテロ第二 3:9)。

「エジプトが最初に警告された刑罰は、最後に与えられるのであった。神は、忍耐深く、あわれみに富んでおられる。神は、ご自分のかたちに造られた者を、やさしく守られる。もし、エジプト人が、畑の産物や、羊や牛の群れなどを失ったとき、悔い改めていたならば子供たちは打たれなかったであろう。しかし、国民は心をかたくなにして神の命令を退けたために、今、最後の災いが訪れようとしていた。」(人類のあけぼの上巻 314)

「主はだれひとり魂が減びることを望まれない。このお方の憐れみは数え切れない。」(上を仰いで 150)

2. 制定された過越

- a. だれが過越の小羊を食べることを許されましたか（出エジプト記 12:43, 48, 49）。
- b. イスラエル人は血をどうするように指示されましたか。またこの指示の目的は何でしたか（出エジプト記 12:7, 13, 23）。

「奴隷たちは、自由を得るに先だって、間もなく成就されようとしている大いなる解放を信じていることを表わさなければならなかった。血のしるしを彼らの家に塗り、彼らとその家族はエジプト人から離れて、それぞれの家の中に集まっていなければならなかった。もしイスラエル人が、与えられた命令のどのような点でも、無視したり、彼らの子供をエジプト人から離すことを怠ったり、小羊を殺しても門の柱に血を塗ることを忘れたり、あるいはだれか家の外に出ているようなことがあったならば、彼らは安全ではなかったであろう。彼らが、必要なことをことごとくすませていると心から思っていたとしても、ただ真剣にそう思っただけでは救われなかったのである。主の命令に注意を払わなかった者は、みな滅びの天使によって、そのういごを失うのであった。

イスラエルの人々は、従順によって彼らの信仰の証拠を示さなければならなかった。そのように、キリストの血の功績によって救われようと望んでいる者は、みな救いを得るために、自分でもしなければならぬことがあるのを知るべきである。罪の刑罰からわれわれを贖うことができるのはキリストだけである。しかし、われわれも罪から離れて服従しなければならない。人間は信仰によって救われるのであって、行ないによるのではないがその人の信仰は、行ないによって示される必要がある。」（人類のあけぼの上巻 320, 321）

- c. 過越の小羊をほふり、それをかもいに塗る働きを、だれがしなければなりませんでしたか（出エジプト記 12:21, 22）。今日、これはわたしたちにとって、どのような意味を持ちますか。

「父親は家族の祭司とならなければならなかった。もし父親が死んでいたなら、生きている長子が、入口の柱に血を塗るという厳粛な行為をしなければならなかった。これは各家庭でなされなければならない務めの象徴であった。親は子供たちを家の中に集めて、彼らの過越のいけにえとしてのキリストを子供たちに示さなければならぬ。父親は彼の家庭の中にいる者をみなキリストにささげ、過越の祭りが象徴している務めをなさなければならぬ。この厳粛な務めを他人の手にまかせることは危険である。」（アドベンチスト・ホーム 363, 364）

3. 過越の意味

- a. イスラエル人はどのように小羊やまた過越の食事に用意されたものを食べなければなりませんでしたか（出エジプト記 12:8-11）。彼らが自分自身の地に定着した後、どのような変化がありましたか。

「エジプトからの救済の時、イスラエルの民は、腰をからげ、つえを手にとり、旅の用意をして、立ちながら過越の食事を食べた。このような式の守り方は、彼らの状態にふさわしかった。というのは、彼らはまさにエジプトの国から追い出され、苦痛と困難に満ちた荒野の旅を始めようとしていたからである。しかしキリストの時代には事態は変わっていた。彼らはいまよその国から追い出されようとしているのではなく、自分自身の国に住んでいる民であった。与えられた休息にふさわしく、人々は、当時、食卓によりかかった姿勢で過越の食事をした。」（各時代の希望下巻 131）

- b. どのようにイスラエル人の驚くべきエジプトからの救出が、彼らの子らの思いに生きつづけましたか（出エジプト記 12:26, 27）。

「過越節は、イスラエルがエジプトの奴隷状態から救済された記念として定められた。毎年、子供たちがこの儀式の意味をたずねるときに、その歴史をくりかえして聞かせるようにと、神は指示された。こうしてあのふしぎな救済がすべての人たちの心に生きつづけるのであった。」（各時代の希望下巻 131）

- c. 過越の祭と主の晩餐の間にはどのような関係がありますか。聖餐式によって、どの働きがわたしたちの心に生きつづけますか（マタイ 26:17-19, 26-29; コリント第一 11:26）。

「弟子たちと過越の食事をされたとき、主は、過越節の代りに、主の大いなる犠牲の記念となる式をお定めになった。ユダヤ人の国民的祭典は永久に過ぎ去るのであった。そしてキリストがお定めになった式が、どの国どの時代においても弟子たちによって守られるのであった。……聖さん式は、キリストの死の結果達成された大いなる救済を記念するために与えられたのであった。主が力と栄光のうちにふたたびおいでになるまで、この儀式は守られる。それは、われわれのためのキリストの大いなるみわざがわれわれの心のうちに生きつづけるための手段である。」（同上 130, 131）

4. 象徴と実体

a. 過越の小羊は、だれの型でしたか (ヨハネ 1:29; コリント第一 5:7)。

「神は、人々を神とやわらがせる賜物が神ご自身の愛から与えられることを彼らに教えたいと望まれた。」(各時代の希望上巻 118)

「犠牲の小羊は、われわれの救いの唯一の希望である『神の小羊』をあらわしている。『わたしたちの過越の小羊であるキリストは、すでにほふられたのだ』と使徒は言った (コリント第一 5:7)。過越の小羊はほふられるだけでは十分ではなく、その血を柱に注がなければならなかった。そのように、キリストの血といさおしは魂にも適用されなければならない。われわれは、キリストが死なれたのは世のためばかりでなく、われわれ一人びとりのためであることを信じなければならない。われわれは、贖いの犠牲の功績を自分のものとしなければならない。」(人類のあけぼの上巻 318)

b. パンによってだれが象徴されていますか。またこれによってどの現実を思い起こすべきですか (ヨハネ 6:47, 48, 51)。

「この世の生命さえキリストの死のおかげである。われわれの食べるパンは、キリストの裂かれたからだをもって買われたものである。われわれの飲む水は、キリストの流された血によって買われたのである。聖徒であろうと罪人であろうと、日ごとの食物を食べる者はだれでも、キリストのからだと血によって養われているのである。どのパンにもカルバリーの十字架の印がおされている。どの泉にもカルバリーの十字架が反映している。キリストはご自分の大いなる犠牲をさし示して、こうしたすべてのことをお教えになった。あの二階座敷の聖さん式から輝き出ている光は、われわれの日常生活の飲食物を神聖なものとしている。家族の食卓は、主の食卓となり、毎度の食事は聖さんとなる。

キリストのことばはまたわれわれの霊的な面において一層真実である。主は、『わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者には、永遠の命がある』と宣言しておられる (ヨハネ 6:54)。われわれが聖潔な生活を送ることができるのは、カルバリーの十字架上でそそぎ出された生命を自分のために受けることによってである。そしてこの生命は、キリストのみことばを信受し、キリストが命じられたことをなすことによって、受けられるのである。こうしてわれわれは、キリストと一つになる。『わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者はわたしにおり、わたしもまたその人におる。生ける父がわたしをつかわされ、また、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者もわたしによって生きるであろう』(ヨハネ 6:56, 57)。この聖句は、特別な意味において、聖さん式にあてはまる。信仰によって主の大いなる犠牲を瞑想するとき、魂はキリストの霊的生命に同化する。その魂は聖さん式のたびに霊的な力を受ける。この式は、信者をキリストにむすびつけ、さらに天父とむすびつける生きたつながりとなる。それは、特別な意味において、神とたよっている人間との間のつながりとなる。』(各時代の希望下巻 141, 142)

5. 十番目の災い – 長子の死

- a. 最後の災いを述べなさい (出エジプト記 12:29, 30)。
- b. イスラエル人はどのようにエジプトの地から追い出されましたか。なぜでしたか(出エジプト記 12:31-33)。

「エジプトの広大な領土のいたるところで、すべての家庭が誇りとしていたものが殺された。悲しむ者の叫びと嘆く声がどこからも聞こえた。王と廷臣たちは顔を青くし、足をふるわせながら、この恐ろしいありさまをながめて立ちすくんだ。パロは、前に、自分がどのように大声で叫んだかを思い出した。『主とはいったい何者か。わたしがその声に聞き従ってイスラエルを去らせなければならないのか。わたしは主を知らない。またイスラエルを去らせはしない』(出エジプト記 5:2)。今、彼の天に対する不敵な誇りはくじかれた。『夜のうちにモーセとアロンを呼び寄せて言った、『あなたがたとイスラエルの人々は立って、わたしの民の中から出て行くがよい。そしてあなたがたの言うように、行って主に仕えなさい。あなたがたの言うように羊と牛とを取って行きなさい。また、わたしを祝福しなさい』』王の大臣たちも国民も、イスラエル人に嘆願して『すみやかに国を去らせようとした。彼らは「われわれはみな死ぬ」と思ったからである』(出エジプト記 12:31-33)。」(人類のあけぼの上巻 322)

個人的な復習問題

1. 神は一つ一つの災いの前に、特に 10 番目の災いの前に、ご自分の警告によって、どのように憐れみを示されましたか。
2. 過越の祭は、どのように信仰と行いが結合すべきであることを示しましたか。これはわたし自身の個人的な経験とどのように関係がありますか。
3. 主の晩餐は、どの救出を記念していますか。なぜ、わたしたちはこれを定期的に守る必要があるのですか。
4. わたしたちの魂に、どのようにキリストの救いの血を適用しますか。
5. わたしたちは時々どのように、パロ同様、自分が神のみ声に聞き従う前に神がわたしたちをへりくだらせるのを待っていますか。

エジプトを去る

「四百三十年の終りとなって、ちょうどその日に、主の全軍はエジプトの国を出た。」
(出エジプト記 12:41)

「定められた広大な軌道にある星のように、神の目的は急ぐことも遅れることもない。」(各時代の希望上巻 22)

参考文献： 人類のあけぼの上巻 323-326

日曜日

2月2日

1. 去るために準備する

- a. イスラエル人は、エジプトにおける自分たちの重労働と苦難のために、何を要求しましたか。またなぜエジプト人は彼らの要求を尊んだのですか (出エジプト記 12:33, 35, 36)。
- b. エジプトを去った集団について述べなさい (出エジプト記 12:37-39)。

「エジプトにおいて示されたしるしや不思議の表れによって、ヘブル人の神が唯一の真の神であることを認めるように導かれたエジプト人が相当数いた。…彼らは今後、イスラエルの神を自分の神として選ぶことを誓った。彼らはエジプトを去り、自分たちの神を礼拝するためにイスラエルの子らと行くことを決心した。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] I 巻 1101)

「出発したのは、『女と子供を除いて徒歩の男子は約六十万人であった。また多くの入り混じった群衆および羊、牛など非常に多くの家畜も彼らと共に上った』(出エジプト記 12:37～38)。この群衆の中には、イスラエルの神を信じる信仰によって行動した人々ばかりではなく、むしろそれ以上の多くの人々が、ただ災いをのがれることを望んで加わっていた。また、単なる興奮と好奇心にかられて、この移動する群衆のあとについて来た人人もいた。こういう種類の人々は、イスラエルにとっていつも妨害となり、わなとなった。」(人類のあけぼの上巻 323)

2. 滞在を覚えて

- a. どれくらいの間、アブラハムとその子孫は、異国人の中に住みましたか。またどの世代において、エジプトでの滞在が終わりましたか（出エジプト記 12:40, 41; 創世記 15:13-16）。
- b. わたしたちはまた、どのようにこの地上に滞在していますか（ヘブル 11:13-16）。

「自分たちの行いによって、〔弟子たちは〕絶えずこの世が自分たちのふるさとはないことを証していた。彼らの市民権は天にあった。彼らはより良い国、天国を求めていた。彼らの会話と愛情は天の事柄にあった。彼らはこの世にいたが、この世のものではなかった。精神と行為において、彼らは世の格言や習慣と分離していた。彼らの日ごとの模範が、神の栄光のために生きていることを証していた。彼らの大きな関心は、その主人の関心と同じように、魂の救いのためであった。」（彼を掲げよ 325）

- c. 過越の記念において、神は人と獣のういごについて、どのような要求をなさいましたか（出エジプト記 13:2, 11-15; 民数記 3:13）。この律法は、どの教訓を教えていますか。

「さらに、人間と家畜のういごは共に主のものとなり、あがないによってのみ、自分たちのものとなったが、それはエジプトのういごが殺されたとき、イスラエルのういごが恵みによって救われたとはいえ、もし、贖いの犠牲がなかったならば、同じ運命にさらされていたことを認めるものであった。」（人類のあけぼの上巻 317）

「幕屋の奉仕が制定されてからは、神は、聖所で奉仕するために、全イスラエルの長子の代りにレビ族をお選びになった。しかし長子はやはり神のものとみなされ、あがないの金で買いもどされるのであった。

このように、長子をささげる律法は特に意義のあるものとされていた。それは神がイスラエルの民を救済されたふしぎなみわざの記念であると同時に、また神のひとり子イエスによってなしとげられるさらに大いなる救済を予表していた。門口に塗られた血によってイスラエルの長子が救われたように、キリストの血には世の人々を救う力がある。」（各時代の希望上巻 39）

3. 神の導きに従う

- a. イスラエル人がエジプトから出発するとき、ヨセフのどの願いが果たされましたか（創世記 50:25; 出エジプト記 13:19）。

「イスラエル人がエジプトを離れたとき、ヨセフの骨という貴重な遺物を携えていた。ヨセフの骨は、長い間神の約束の成就を待つとともに、暗い奴隷生活の年月の間、イスラエルの解放を思い起こさせるものであった。」（人類のあけぼの上巻 324）

- b. なぜ彼らは約束の地へ向かってまっすぐに導かれる代わりに、長い回り道をとったのですか（出エジプト記 13:17, 18）。

「主は、カナンに向かうのに、ペリシテ人の国を通って行く最短の道を行かせずに、紅海の岸にそって南に彼らを導かれた。『民が戦いを見れば悔いてエジプトに帰るであろうと、神は思われたからである』（出エジプト記 13:17, 18, 20-22 参照）。もし、彼らがペリシテの国を通ろうとしていたならば、彼らの旅は妨害されたであろう。ペリシテ人は、イスラエル人を主人のところから逃走している奴隷と見なし、ためらうことなくイスラエル人に戦いをいどんだことであろう。イスラエル人は、貧弱な準備しかなかったため、この強力で好戦的な民族と戦いをまじえることはできなかった。彼らは、神に関してほとんど知識を持っておらず、信仰も弱かったため恐怖に襲われ、心がくじけてしまったことであろう。彼らは、武器もなく、戦いにも慣れておらず、長い束縛によって心がくじかれていた。その上、女、子供、羊、牛などを引き連れていた。主は彼らを紅海に行く道にお導きになって、ご自分が裁きの神であると同時に、あわれみの神であることをあらわされた。」（同上 324, 325）

- c. 神がイスラエルの子らにされたように、わたしたちの理解しない道に導いておられるように見えるとき、何を覚えているべきですか（ヨハネ 13:7）。

「しばしばわたしたちの試練はほとんど耐えがたいように見えるものである。そして神からの助けなしには、本当に耐えられないのである。わたしたちがこのお方により頼まない限り、悲しみと悲嘆しかもたらさない責任の重荷の下に沈んでしまうであろう。しかし、もしわたしたちがキリストをよりどころとするなら、試練の下に沈んでしまうことはない。すべてが暗く説明がつかないように思えるとき、わたしたちはこのお方の愛に信頼すべきである。わたしたちはキリストがわたしたちの魂に語ってこられた次の言葉を繰り返さなければならない。『わたしのしていることは今あなたにはわからないが、あとでわかるようになるだろう。』（今日のわたしの生涯 184）

4. 神の導きの目に見えるしるし

- a. どの場所から、イスラエルの子らは旅を始めましたか。彼らはどこで第一、第二の駐在をしましたか（出エジプト記 12:37; 13:20）。
- b. 神は昼に夜に彼らの旅においてご自分の民を導くために、何を送られましたか（出エジプト記 13:21, 22; 詩篇 105:39）。

「目に見えない指導者の旗じるしが、いつも彼らのそばにあった。昼は、雲が彼らの旅路を導き、また、イスラエルの軍勢の頭上に天蓋のようにひろがっていた。それは、焼けるような熱から保護する役目を果たし、その涼気と湿度は、かわききって干からびたさばくの中で、生気を回復させるものとしてまことにありがたいものであった。夜になるとそれは火の柱になって、彼らの天幕を照らし、たえず主のご臨在をあかししていた。」（人類のあけぼの上巻 325）

- c. 神の民が天のふるさとへ近づくときの最終的な戦いにおける神の民に対する神の保護を、イザヤはどのように表していますか（イザヤ 4:5, 6）。

「イザヤの最も美しく、慰めに満ちた預言の言葉のなかで、この雲と火の柱は、悪の勢力との最後の大争闘において、神が、神の民を守られることの象徴として用いられている。『その時、主はシオンの山のすべての場所と、そのもろもろの集会との上に、昼は雲をつくり、夜は煙と燃える火の輝きとをつくられる。これはすべての栄光の上にある天蓋であり、あずまやであって、昼は暑さをふせぐ陰となり、また暴風と雨を避けて隠れる所となる』（イザヤ 4:5, 6）」（同上 325）

「わたしたちの前にある悩みの時において、忍耐についての神の言葉を守ってきた人々の上に、神の安全の誓いがおかれる。…ユダ族のししは、このお方の恵みを拒む者には非常に恐るべき方であるが、従順で忠実な者には神の小羊となられる。神の律法の違反者には、怒りと恐怖を語る雲の柱は、このお方の戒めを守ってきた人々にとっては光と憐れみと救出である。反逆者を打つのに強い腕は、忠実な者を救出するのに力強い。すべての忠実な人はたしかに集められるであろう。『また、彼は大きいラッパの音と共に御使たちをつかわして、天のはてからはてに至るまで、四方からその選民を呼び集めるであろう』（マタイ 24:31）。」（教会への証 6 巻 404）

5. パロがイスラエルを追う

- a. 主は、彼らの差し迫った危険をご覧になって、イスラエルにどの教えと警告を送られましたか (出エジプト記 14:1-4)。
- b. パロはどのような強力な軍隊をもって逃亡者を追いましたか。また彼はどこで彼らに追いつきましたか (出エジプト記 14:5-9)。

「王は、堂々たる彼の勢力を誇示して、イスラエル人の勇気をくじこうと思った。エジプト人は、イスラエルの神に屈服させられたために、他国民のちょう笑の的になったのではないかと恐れていた。そこで、もし彼らが今出て行って、その偉力を示し、逃亡者を連れもどしたならば、奴隷たちの労働力を取り返すと同時に、彼らの栄光を再び回復することができるのであった。」(人類のあけぼの上巻 326)

- c. サタンの支配からの自由のために個人的に苦闘するとき、どの約束が、救出の保証をもってわたしたちを鼓舞すべきですか (イザヤ 49:24, 25)。

「暗黒の悪霊たちはかつて自分たちの支配下にあった魂を求めて戦う。しかし神の天使たちがすぐれた力をもってその魂のために戦うのである。主はこう言われる、『勇士が奪った獲物をどうして取り返すことができようか。暴君がかすめた捕虜をどうして救い出すことができようか。…主はこう言われる、『勇士がかすめた捕虜も取り返され、暴君が奪った獲物も救い出される。わたしはあなたと争う者と争い、あなたの子らを救うからである』(イザヤ書 49:24,25)。』(各時代の希望上巻 324)

個人的な復習問題

1. 神に仕えるためのわたしたちの動機において、どのようにわたしたちは寄り集まり人になる可能性がありますか。
2. わたしたちはどのように、この地上では滞在しているにすぎないことを示すことができますか。
3. 自分たちの旅路の開始に、なぜイスラエル人は長い道を取らなければならなかったのですか。彼らのこの経験から、わたしたちは何を学ぶべきですか。
4. どのように雲の柱と火の柱は、再び来たるべき戦いにおいて神の民のために働きますか。
5. エジプト人はイスラエル人を追いかけようと決心したとき、何を再び得ようとしていましたか。

紅海を渡る

「主は紅海をしかって、それをかわかし、彼らを導いて荒野を行くように、淵を通らせられた。」(詩篇 106:9)

「キリストの力強いみ手が、紅海の水を巻き上げた。このためにそれらは壁のように立った。こうしてこのお方は海の中に乾いた道を作られ、イスラエル人は靴をぬらすことなく渡った。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 1 巻 1101)

参考文献： 人類のあけぼの上巻 327-334

日曜日

2月9日

1. 恐れている者を慰める

- a. イスラエル人は、前には海を、後ろにはパロの軍勢を見たとき、どのように自分たちの恐れを表現しましたか (出エジプト記 14:10-12)。

「ヘブル人は、海のそばに天幕を張った。海の水は彼らの前に立ちただかつて、通り抜けることのできない障害のように思われた。一方、南側にはけわしい山があって、彼らの進行を妨げていた。突然、彼らは遠くかなたに強力な軍勢の接近を示す武器のきらめきと戦車の動きをみた。…… イスラエルの人々は恐怖に襲われた。」(人類のあけぼの上巻 326, 327)

- b. モーセはどの言葉をもって、彼らの恐れを静めようとしたか (出エジプト記 14:13, 14)。

「民のために示された神の力を、何度も目撃しているにもかかわらず、なぜ彼らは、このような弱い信仰しか持てないのかと、モーセは非常に悩んだ。モーセが神の明らかな命令に従ってきたことがわかっているのに、彼らはなぜ自分たちのおかれた、危険で困難な事態の責任をすべてモーセに負わせようとするのであろうか。事実、神が彼らをお救いになるために介入なさらなければ、解放される可能性はなかったのである。しかし、モーセは神の命令に従ったために、このような事態におかれたのであったから、その結果を恐れていなかった。」(同上 327)

2. 神がのがれの道をつくれる

- a. 神は差し迫った危険をご覧になって、モーセにどの指示をお与えになりましたか（出エジプト記 14:15-18）。キリストはご自分の弟子たちが困難に取り囲まれているのがわかるための、どのように同様の指示をお与えになりましたか（ヨハネ 16:33）。

「キリストは失敗をなさらなかったし、失望もされなかった。だから弟子たちも同じように忍耐強い信仰を示さなければならなかった。彼らは主から力をいただき、主が働かれたように働かなければならなかった。たとえ、明らかに不可能な事によって道をふさがれようとも、なお、彼らは主の恵みにより、失望することなく、すべてに望みを抱いて、ひたすら前進しなければならなかった。」（患難から栄光へ上巻 17）

- b. 神の御使は、どのように海を通してイスラエルの子らのために逃れの道をつくられましたか（出エジプト記 14:19-22）。

「さて、エジプトの軍勢が今にも彼らを餌食にしようとして近づいて来たとき、雲の柱は天に向かっておごそかに昇っていった。そして、イスラエル人の頭上を越え、イスラエル人とエジプトの軍勢との間に下った。追われる者と追う者の間に暗黒の障壁が立ちはだかった。エジプト人は、もはや、ヘブル人の陣営を見分けることができなくなり、やむを得ず立ち止まった。しかし、夜のやみが深まるにつれて、この雲の壁はヘブル人には大きな光となり、真昼の輝きをもって全陣営を照らした。」（人類のあけぼの上巻 328）

- c. この経験から、わたしたちは何を学ぶべきですか（ローマ 8:31）。

「神の民はすべての危機において、『もし、神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか』と、確信をもって言うことができるのである（ローマ 8:31）。しかし、サタンとその手下たちが、どんなに狡猾に陰謀をめぐらしても、神はそれらを看破して、彼らの計画をみな挫折させられる。今日信仰はネヘミヤが答えたように『われわれの神はわれわれのために戦われます』と答えるのである（ネヘミヤ記 4:20）。神が工事をしておられるのであるから、どんな人も、その最後の勝利を妨害することはできない。」（国と指導者下巻 246）

3. エジプト人のための悩み

- a. 主はどのようにエジプトの軍勢を妨げられましたか (出エジプト記 14:23-25 (前句) ; 詩篇 77:15-18)。

「エジプト人は神がご自分の民のために備えられた道をあえて進もうとした。そして神の御使たちが彼らの軍勢の中を行き、彼らの戦車を取り除いた。彼らは苦しめられた。彼の進みは非常に遅く、悩み始めた。彼らはヘブル人の神がエジプトで彼らにもたらし、イスラエルを行かせざるをえないようにさせた審判を覚えていた。そして彼らは神が自分たちをみなイスラエル人の手に渡すのではないかと思った。彼らは神がイスラエル人のために戦っておられるのだと思い、非常に恐れた。」(霊的賜物 3 巻 235)

- b. エジプト人がイスラエル人を追いかけるのに自分たちが苦勞しているのがわかったとき、互いに何と言いましたか (出エジプト記 14:25 (後句))。

- c. イスラエル人が無事に海を渡り、またモーセが自分の杖をふたたび差し伸べたとたん、何が起こりましたか (出エジプト記 14:26-30)。神は天のカナンの境で、ご自分の民のためにどのように同様の救出をなさいますか。

「エジプト人はあわてふためいた。荒れ狂う自然界の中に、彼らは怒りを発せられた神の声を聞き、きびすを返して再びもとの岸辺に逃げかえろうとした。しかし、モーセがつえをさしのべると、おしとどめられていた水がほえたけるような音をたててもとにもどり、黒い海の深みにエジプトの軍勢をのみこんでしまった。

夜が明けると、イスラエルの群衆は、彼らの強力な敵の残骸、すなわち武具をまとった死体が岸辺に散乱しているのを見た。一夜のうちに彼らは最も恐ろしい危機から完全に救われたのであった。」(人類のあけぼの上巻 329)

「天の知的存在者たち、力にすぐれた御使たちは、このお方のご命令に従って、人間の代理人と結合しようと待っている。主は事態が神聖な力でなければ働いているサタンの代理人たちに対抗できないようなところにさしかかると介入される。このお方の民が大きな危険のうちにいて、サタンの力に耐えられないように見えるとき、神が彼らのために働かれる。人の窮地は、神の好機である。」(セクレット・メッセージ 2 巻 373)

4. 大救出

- a. 詩篇記者はイスラエルの民によって紅海を渡る道をどのように描写しましたか（詩篇 77:19, 20; 106:8-11）。
- b. 神がイスラエル人のために紅海を開かれるために、彼らの側では何が必要でしたか（ヘブル 11:29）。

「神は、み摂理のうちにヘブル人を海に面した山の中に導かれたが、それは、神が彼らを救う力を示し、彼らを圧迫するものの誇りをあからさまにくじくためであった。神は別の方法を用いて彼らを救うこともできたが、彼らの信仰を試み、神に対する彼らの信頼を強めるために、この方法をお選びになった。人々は疲労し、恐怖に満たされていた。しかし、モーセが前進せよと命じたときもし彼らがためらっていたならば、神は彼らのために道を開くことをなさらなかったであろう。『信仰によって、人々は紅海をかわいた土地をとおるように渡った』（ヘブル 11:29）。彼らは、水の中を進んで行くことによって、モーセを通してお語りになった神の言葉を信じていることを示した。彼らが力のかぎりをつくしたときに、イスラエルの力ある神が海を分けて、彼らの歩む道をお作りになった。」（人類のあけぼの上巻 333）

- c. 主が自分たちのために備えて下さった驚くべき救出に対して、イスラエル人はどのように反応しましたか（出エジプト記 14:31; 詩篇 106:12）。この経験はわたしたちにどの教訓を教えますか。

「ここに教えられている驚くべき教訓は、いつの時代にもあてはまるのである。クリスチャンの生涯は、しばしば危険にさらされ、義務を果たすことが困難に思われる。われわれは、前方には滅び、後方には束縛や死が迫っているように考える。それにもかかわらず、神のみ声は明らかに『前進せよ』と語っている。われわれの目が、暗黒を貫いて見ることができなくても、また、冷たい波を足もとに感じて、われわれはこの命令に従わなくてはならない。われわれの前進を妨げる障害物は、ためらったり疑ったりしては取り去られることはない。すべての不安のかげが消えうせ、失敗や敗北の危険が全くなくなるまで服従をのぼすものは、絶対に服従することはない。『障害物が取り除かれて、われわれの道が明らかに見えるようになるまで待とう』と不信はささやく。しかし、信仰はすべてを望み、すべてを信じておしく前進することを勧める。」（同上 334）

5. 勝利の歌をうたう

- a. 民はどのように自分たちの幸福を表現しましたか。モーセの歌から鍵となるいくつかの思想は何ですか (出エジプト記 15:1-21)。

「この歌と、この歌が記念する大いなる解放は、ヘブル人の心にいつまでも消えない印象を与えた。この歌は、代々にわたり、イスラエルの預言者や歌人たちによってくり返し歌われ、主は、彼によりたのむ者の力であり、救いであることをあかしされた。」(人類のあけぼの上巻 332)

- b. いつ、どこで、まただれによって、同様の歌が再び歌われますか (黙示録 15:2-4)。

「この歌は、ユダヤ民族だけのものではない。それは義の敵がすべて滅び、神のイスラエルが最後に勝利をおさめる未来をさし示している。」(同上)

「そして、彼らは、み座の前で新しい歌をうたう。この歌は、14万4千以外のものは、だれも学ぶことができない。それは、モーセと小羊の歌、すなわち、救いの歌である14万4千のほかは、だれもその歌を学ぶことができない。なぜなら、それは彼らの体験—他のどの群れもしたことのない体験—の歌だからである。」(各時代の争闘下巻 430)

個人的な復習問題

1. なぜモーセは紅海で恐れなかったのですか。わたしはどのように彼のようになれますか。
2. 神はイスラエル人のために、どのように逃れの道を作られましたか。このお方は時に、どのようにあなたのために逃れの道を作って下さいましたか。
3. ちょうど天のカナンの境にいるご自分の民を助けるために、神はいつ介入して下さいますか。
4. なぜ神はイスラエル人を困難な状況に導き入れられることを選ばれたのですか。なぜわたしたちはときどき、自分たちが難しい場所におかれているのを見いだすのですか。
5. なぜモーセと小羊の歌は、特別な群しか歌うことができないのですか。

メラとエリムでの教訓

「モーセは主に叫んだ。主は彼に一本の木を示されたので、それを水に投げ入れると、水は甘くなった。その所で主は民のために定めと、おきてを立てられ、彼らを試みて」(出エジプト記 15:25)

「すべての危急時に知恵を主に求めなさい。すべての試練において、イエスに自分の悩みから抜け出す道を示して下さいよう嘆願しなさい。そのとき、あなたの目は、治療法をみとめ、自分の事情にみ言葉に記されてきた癒やしの約束を適用するために開かれる。」(セレクトド・メッセージ 2 巻 273)

参考文献： 人類のあけぼの上巻 335 ～ 340

日曜日

2月16日

1. シュルの荒野で
 - a. イスラエル人は、何日間水を見つけることなく、荒野で旅をしましたか(出エジプト記 15:22)。
 - b. 水を見つけた場所の名前は何でしたか。またその水はどのようなものでしたか(出エジプト記 15:23)。「メラ」は何を意味していますか(同節、傍注)(ルツ 1:20 参照)。

「三日間旅を続けたが、水を見つめることができなかった。持参した水のたくわえは使い果たしてしまった。太陽の照りつける平原を、疲れた足を引きずって歩く彼らの焼けつくのどのかわきをいやすものはないもなかった。モーセは、この地域をよく知っていたので、ほかの人たちの知らないこと、すなわち、メラが一番近い水の泉のあるところであるが、その水は飲めない水であるということを知っていた。彼は、はなはだしく気をもみながら、彼らを導く雲を見守った。水だ、水だという喜びの叫び声と一緒に伝わるのを、彼は沈む思いで聞いた。男も女も子供たちも、喜んで水の泉にかけ寄ったのであるが、人々の間から苦悩の叫び声が起こった。水は苦かったのである。」(人類のあけぼの上巻 335)

2. 祝福を忘れる

- a. 民は渇きに苦しみ始めると、何をしましたか（出エジプト記 15:24；詩篇 106:13）。

「腹立たしさと絶望のうちに、彼らは、あの不思議な雲のなかに神が臨在して、彼らばかりでなくモーセを導いてこられたことを忘れて、モーセが自分たちをこんな道に導いてきたとって責めた。モーセは、彼らの苦しみを気のどくに思い、彼らが忘れていたことをした。彼は熱心に神の助けを呼び求めたのである。」（人類のあけぼの上巻 336）

- b. キリストは自分の将来の必要のために不安を感じて、過去の祝福を忘れる人々に、何と言われますか（ルカ 12:29, 30）。

「クリスチャンは生活の必要に関して不安な思い煩いに悩まされるのを自分に許してはならない。もし人が神を愛し、従い、また自分の分を果たすなら、神は彼らのすべての必要を備えて下さる。あなたの生活費は額に汗して得なければならないかもしれないが、あなたは神を信頼しないようなことがあってはならない。なぜなら、このお方のみ摂理の大いなる計画において、このお方は日々、あなたの必要を満たして下さるからである。」（管理者への勧告 227）

- c. 何が、神は決してわたしたちのことをお忘れにならないことを示していますか（イザヤ 44:21；49:15, 16）。

「イエスの愛は、母親の自分の子供に対する愛よりもやさしく表現されるものである。わたしたちが知っている最もやさしい愛情は、母親が自分の子供に対してもっている愛情であるが、イエスの愛はこれを超える。彼女は自分の愛情を変えるかもしれない。母親は不親切になるかもしれない。しかし、イエスは決して、決して、ご自分の子らを心にかけなかったり、不親切になったり、残酷になったりすることはない。

そうであれば、決して、決してわたしたちは不信頼や信仰の欠如を表してはならない。このお方の愛は非常に強いので、そのご性質の愛情をすべて支配する。そして〔このお方は〕ご自分の膨大な資源をご自分の民に善をなすためにお使いになるのである。このお方の愛は永続的であり、変化や回転の影はない。非常に一生懸命に自分自身を保とうとしたり、自分たちの目を自らにしっかりと留め、絶えず自分自身を視野に入れるたりすることによって、神を辱めるようなことが決してないようにしよう。」（上を仰いで 180）

「ああ、神が決してわたしたちをお忘れにならないのに、わたしたちはなんと簡単に神を忘れることか。このお方は毎時間、ご自分の憐れみをもってわたしたちを訪れて下さる。」（わたしたちの高い召し 314）

3. 苦さが甘さに変えられる

- a. メラの水はどのように甘くなりましたか (出エジプト記 15:25)。わたしたちはこのことからどのような実践的な教訓を学ぶことができますか。

「あらゆる試練に対して神は助けを準備しておられる。イスラエル人が荒野のメラにおいて苦い水に行きあつたとき、モーセはエホバに叫び求めた。神は別に新しい救済策をほどこされるのではなく、手もとにあつたものに注意を向けさせられた。すなわちその水を清く、甘くするために神が作られた大灌木を泉に投げ入れなければならなかった。そうしてから人々はその水を飲み元気を回復したのであつた。あらゆる試練に際してわたしたちがキリストを求めるならば、キリストは助けを与えてくださる。わたしたちの目は打ち開かれ、そのみ言葉の中に記録されているいやしの約束に気づくようになる。聖霊は悲しみを和らげる祝福をいっさい自分のものとする方法を教えてくれる。わたしたちのくちびるにあるすべての苦い水に対してそれをいやす木の枝を発見するであろう。

わたしたちは未来のことを考え、困難な問題や面白くない予想をして自ら失望し、ひざを震わせ、両手を下げて意気消沈してはいけない。『わたしの保護にたよって、わたしと和らぎをなせ、わたしと和らぎをなせ』と大能の神は申されている (イザヤ書 27:5)。神の指導に従い、神に仕えるために一生をささげる者が神が備えられない境遇に陥ることは決してない。もしわたしたちが神のみ言葉を行っていれば、境遇がどうであっても、みちびき手である案内者があり、どんな困惑に遭遇しても確かな相談相手があり、どんな悲しみ、死別、孤独の中にあつてもわたしたちには同情深い友人がおられるのである。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 225, 226)

- b. どこで、また他のどのような場合に、同様の問題がありましたか。またどのように解決しましたか (列王紀下 2:19-22)。

「エリコの水が良い水になったのは人間の知恵によるものではなくて、神の奇跡的介入によるものであつた。……

エリシャは苦い水の源に塩を投げ入れることによって、数世紀後、救い主が『あなたがたは、地の塩である』と言って、弟子たちに教えられたのと同じ霊的教訓を教えたのである (マタイ 5:13)。汚染された泉に混ぜられた塩は、その水を清めて、これまで暗い影と死をもたらしていたところに、生命と祝福をもたらすようになった。神が神の民を塩にたとえられたのは、神が彼らに恵みをほどこされたのは、彼らが他の人々を救う器になるためであるという神のみこころを彼らに教えるためであつた。神が全世界の前で一つの民を選ばれたということは、ただ彼らを神の息子、娘として受け入れるためだけでなく、彼らによって世界が救いをもたらす恵みを受けるようになるためであつた。」(国と指導者上巻 198, 199)

4. 従順な者への約束

- a. 主はご自分の民のために何をなさると約束されましたか。また何が条件でしたか（出エジプト記 15:26）。今日も同様の条件ですか。

「健康を保ちたければだれでも守らねばならない条件がある。だれでもみなこれらの条件がなんであるかを知らねばならない。主は、自然の法則であっても霊的な法則であっても、主の律法について人が無知であることをおよこびにならない。われわれは、霊的な面ばかりでなく、肉体的な面においても、健康を回復するために神と共に働く者となるのである。

そこでわれわれは、どのように健康を維持し、回復するかについて人々に教えねばならない。」（各時代の希望下巻 372, 373）

- b. 病気の人には、どの保証が与えられていますか（詩篇 103:2-5; ヤコブ 5:15, 16）。

「中風の人は、キリストによって霊肉のいやしをうけた。彼は肉体の健康を与えられる前に、心の健康を必要としたのである。肉体の病がいやされる前に、キリストは精神をいやし、罪ある心をおきよめにならねばならない。この教訓は見のがしてはならない。今日肉体の病気で苦しんでいる人で、ちょうどあの中風の人のように『あなたの罪はゆるされた』とのみ言葉を切望している者が幾千人もいる。罪の重荷は、不安と満たされない欲望を伴って、病気の根底となっている。そういう人々は心をやしてくださる方のところにこなければ助けは得られない。キリストのみが与えてくださることのできる平安は、精神に活力を回復し、からだに健康を与えるのである。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 52）

- c. 自分たちの体をどのように世話するかについて、なぜわたしたちは厳密であるべきなのですか（コリント第一 6:19, 20; 10:31）。

「体という聖なる宮はその中に神の御霊が宿られるように、純潔に汚されずに保たねばならない。わたしたちは忠実に主の財産を守る必要がある。なぜなら、わたしたちの力を乱用することは何であつても、神の栄光のためにわたしたちの命を用いることのできる時間を縮めるのである。…わたしたちの力を最も有益な仕事に最大限に用いることによって、またすべての器官を健康に保つことによって、すなわちすべての器官を、頭脳と神経と筋肉が調和して働くように保つことによって、わたしたちは神のために最も貴重な奉仕をなすことができる。」（今日のわたしの生涯 134）

5. エリムの井戸

- a. イスラエル人がメラを去った後、次の野営はどこでしたか。彼らがそこで見つけたオアシスを述べなさい (出エジプト記 15:27)。
- b. 神がちょうど荒野を通じてイスラエル人のために食物と水を備えられたように、このお方はどのように天のカナンに入る直前にご自分の民の必要を備えると約束しておられますか (イザヤ 33:16; 詩篇 37:19)。

「悩みの時の物質的 necessary のための準備をすることは、聖書に反することであることを、主は、繰り返してわたしに示された。もし聖徒たちが、自分たちのところ、または畑に食糧を貯えていたりしても、もし国に戦争、ききん、疫病が起これば、それは暴徒たちに奪い去られ、他人が畑の作物を刈るようになることを、わたしは見た。それは、われわれが神に全く信頼する時である。そして神はわれわれをお支えになる。その時に、われわれのパンと水は必ず与えられ、われわれが物に乏しかったり、飢えたりすることがないことを、わたしは見た。なぜならば、神は荒野で、われわれのために食卓の用意をすることがおできである。もし必要ならば、彼がエリヤを養われたように、われわれを養うためにからすを送ったり、あるいは、イスラエルのためになされたように、天からマナを降らせることもなさるのである。」(初代文集 127)

個人的な復習問題

1. なぜイスラエルの子らが水を見つけた場所は、メラと呼ばれたのですか。
2. 自分たちをこの場所に導かれた神のみ摂理に、彼らはどのように反応しましたか。わたしたちはその代わりにどうすべきですか。
3. 神は、ご自分がわたしたちの必要を満たして下さらない状況にいるところを決して見いだすことはない約束して下さいました。どの条件の下で、それは真実ですか。
4. 今日、神の健康の法則を守ることはなぜ非常に重要なのですか。
5. 神はご自分の民が天のカナンに入る直前に、何を備えると約束して下さいましたか。

天からのパン

「イスラエルの人々は人の住む地に着くまで四十年の間マナを食べた。すなわち、彼らはカナンの地の境に至るまでマナを食べた。」(出エジプト記 16:35)

「四十年の間、〔イスラエル人は〕この奇跡的な供給によって、神の絶えることのない守護とやさしい愛を毎日自覚させられた。詩篇記者のことばに、神は『天の穀物を彼らに与えられた。人は天使のパンを食べた』と言われている(詩篇 78:24,25)。天使のパンとは、天使たちによって彼らに与えられた食物ということである。」(人類のあけぼの上巻 344)

参考文献： 人類のあけぼの上巻 339-344

日曜日

2月23日

1. 再びつぶやき、文句を言う

a. なぜ、イスラエル人はシンの荒野に着いたとき、再びつぶやきましたか(出エジプト記 16:1-3)。

「彼らはまだ飢えてはいなかった。そのときの必要は満たされていたのであるが、彼らは将来を恐れたのである。この大群衆が、荒野の旅をどのようにして生きていくのか、彼らはわかっていなかった。彼らは子供たちが飢え死にする光景を想像した。主は、これまで彼らを救ってくださったおかに、人々の心をむけさせようとして、いろいろな困難を彼らに経験させ、食料の供給をとめられたのである。もし欠乏の中にあって神に呼び求めるなら、神は依然として、神の愛と守りについてはっきりした証拠をお与えになるのである。神の戒めに従うなら、病気になることはない、神は約束されたのであるから、自分も子供たちも飢え死にするかも知れないと予想することは、彼らの罪深い不信であった。…

彼らは、目の不便と試練だけを目にとめてそれを感じた。そして、『神はわれわれのために大いなることをしてくださった。われわれは奴隷であったのに、神はわれわれを大いなる国民にしてくださるのだ』と言わないで、彼らは、途中の困難について語り、このたいくつな放浪はいつ終わるのだろうと思った。」(人類のあけぼの上巻 336-338)

2. つぶやく者を譴責する

- a. 主は何を備えて下さいましたか。そして、このお方は彼らの日々の備えを満たして下さるときに、民をどのように試されましたか (出エジプト記 16:4, 5)。
- b. 民の不条理なつぶやきに対して、モーセとアロンの応答は何でしたか (出エジプト記 16:6-10)。

「モーセは会衆に、彼らの必要が満たされることを保証して、『主は夕暮にはあなたがたに肉を与えて食べさせ、朝にはパンを与えて飽き足らせられるであろう』と言った。彼はさらに、『いったいわれわれは何者なのか。あなたがたのつぶやくのは、われわれにむかってでなく、主にむかってである』とつけ加え、アロンに命じて、『あなたがたは主の前に近づきなさい。主があなたがたのつぶやきを聞かれたからである』と人々に言わせた。アロンが語っているとき、『彼らが荒野の方を望むと、見よ、主の栄光が雲のうちに現れていた』(出エジプト記 16:8-10)。彼らがこれまでに一度も見たことのない輝きは、神のご臨在を象徴していた。感覚に訴える啓示を通して、彼らは神についての知識を得るのであった。彼らが神のみ名をおそれ、神のみに従うように、人間モーセではなく、至高者であられる神が、彼らの指導者であることを彼らに教えねばならなかった。」(人類のあけぼの上巻 340)

- c. 今日の食物が備えられることに関して、どのような約束がありますか(ピリピ 4:19; 詩篇 37:25)。このことに関して、わたしたちはどのようにイスラエルの子らのようにつぶやいていますか。

「現在の必要は満たされているのに、多くの者は将来のことを神に信頼しようとしなくて、貧乏になりはしないか、子供たちが苦しみはしないかと絶えず心配する。ある人たちは、いつも悪いことを予想したり、実際に困難なことがあると、それを大げさに考えたりするので、彼らの目は、感謝しなければならない多くの恵みに対して盲目になっている。彼らは、困難に出会うときに、唯一の力の源であられる神に助けを求めようとしなくて、不安とつぶやきの心を起こし、かえって神から離れてしまうのである。……

われわれの幸福が地上の事物にあるかのように、将来の必要に対する備えを人生の主要事として、神への不信をいだいてはならない。神の民が、心配事にうちひしがれることは、みこころではない。」(人類のあけぼの上巻 338, 339)

3. 神はご自分の民のために備えられる

- a. ある時、また後には一ヶ月の間、夕に朝に、主はどのような種類の食物をイスラエルのために備えて下さいましたか（出エジプト記 16:11-15）。なぜ神は彼らのために食物を備えて下さる種類について非常に厳密であられたのですか。

「もしイスラエル人がエジプトで慣れてきた食事を与えられていたとしたら、彼らは今日世の中で表されているような制御しがたい精神を表していたことであろう。この時代に男女の食物には主がイスラエルの子らに食べることを許されなかった多くの者が含まれている。今日ある通りの人類家族は、もし神がイスラエルの子らにエジプトの食物を食べ、彼らの習慣やならわしに従うことを許されていたら、どうなったかという実例である。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 1 巻 1102）

「エジプトで、彼らの嗜好はゆがめられていた。神は彼らの食欲を純潔で健康的な状態に回復しようと意図された。それによって彼らがエデンでアダムとエバに与えられた単純な果物を楽しむことができるためであった。このお方は第二のエデン、良き地に彼らを定着させようとしておられた。そこで彼らのご自分が彼らのために備えられる果物と穀物を楽しむことができるのであった。このお方は彼らがエジプトで食物として与えられていた熱っぽい食事を取り除くことを目的としておられた。なぜなら、このお方は彼らを導き入れようとしておられる良き地に入るときに、彼らが完全な健康と健全さの状態にあることを望まれたからである。こうして周囲の異教国家がイスラエルの神、すなわちご自分の民のために非常にすばらしい働きをなさった神に栄光を帰さずにはおれないようになるためであった。ご自分を天の神として認める民が、完全に健全な健康状態のうちにないかぎり、このお方のみ名は栄光を受けることができないのであった。」（同上）

- b. マナを描写しなさい。またそれはどのように調理されましたか（出エジプト記 16:31; 民数記 11:7, 8）。

「朝になると、地面に、『薄いうろこのようなものがあり、ちょうど地に結ぶ薄い霜のようであった。』『それはコエンドロの実のようで白』かった。人々はそれをマナと呼んだ。モーセは、『これは主があなたがたの食物として賜わるパンである』と言った（出エジプト記 16:14, 31, 15）。人々はマナを集めたが、全部の人たちに十分供給するだけあった。人々は、『ひきうすでひき、または、うすでつき、かまで煮て、これもちとした』（民数記 11:8）『その味は蜜を入れたせんべいのようであった』（出エジプト記 16:31）。」（人類のあけぼの上巻 340, 342）

4. マナを集める

- a. マナを集める際に、民はどのような指示を与えられましたか（出エジプト記 16:16-26）。マナは、どのようにシナイ山で律法を与えられる前に安息日を遵守する必要性を例証していましたか。

「イスラエル人は、荒野での長い間の滞在中に、毎週三重の奇跡を目に見たが、それは彼らの心に安息日の神聖を印象づけるためのものであった。すなわち、六日めには二倍の分量のマナがふり、七日めには全然ふらなかった。そして、ほかのときには翌日までとっておいたものは食べられなくなっていたが、安息日に必要な分は新鮮なまま保存がきいたのであった。

マナが与えられたときの事情をよく考えてみると、安息日は、律法がシナイで与えられたときに創設されたと多くの人が主張しているが、そうではないという決定的な証拠がみられる。イスラエル人は、シナイに到着する前に、安息日を守らなければならないことを知っていた。安息日には全然降らなかったのも、その準備として金曜日ごとに二倍の分量のマナを集めなければならなかったことによって、安息日が清いものであることが絶えず心に印象づけられた。」（人類のあけぼの上巻 343, 344)

- b. 日々のマナの備えは、どれくらい続けましたか（出エジプト記 16:35）。なぜ神はそれを取り除かれたのですか。

『その月の十四日の夕暮』、エリコの平野で、過越の祭りが行なわれた。『そして過越の祭の翌日、その地の穀物、すなわち種入れぬパンおよびいり麦を、その日に食べたが、その地の穀物を食べた翌日から、マナの降ることはやみ、イスラエルの人々は、もはやマナを獲なかった。その年はカナン地の産物を食べた』（ヨシュア 5:10～12)。長い年月におよぶ荒野のさすらいは終わった。ついにイスラエルの足は、約束の地を踏んだのであった。」（人類のあけぼの下巻 106, 107)

- c. なぜ、マナのつぼは契約の箱の中に保管されたのですか（出エジプト記 16:32, 33; ヘブル 9:4)。

5. 今日、マナを食する

- a. わたしたちが今日集めて食べるべきマナは何ですか（エレミヤ 15:16; ヨハネ 6:63（下旬））。どれくらいしばしばこれを食べる必要がありますか。

「〔神の〕み言葉は、それを食し、霊的な力を受ける魂にとって天からのマナである。聖書は善悪の偉大な標準である。罪と聖潔をはっきりと定義している。その生きた諸原則は、金糸のようにわたしたちの生活を通じて走り、試練と誘惑におけるわたしたちの唯一の防御である。」（両親、教師、生徒への勧告 422）

「各自が自分自身の魂の飢えをもってキリストの許へ来て、各自が自分自身で罪を自覚し、自分自身の魂の必要を感じ、自分でキリストから学ばなければならない。

命のパンに満たされると、わたしたちは地上の魅力、世俗的な興奮、また地上の壮大さを切望することはできない。わたしたちの宗教経験は、自分たちが食している食物と同じ種類のものとなる。

わたしたちが一度の食事に得る食物が永遠にわたしたちを満たすわけではない。わたしたちは日々食物にあずからなければならない。同様に、わたしたちは魂の命が新たにされるために、日々神のみ言葉を食さなければならない。絶えず神のみ言葉を食する人々のうちに、栄光の望みなるキリストが形成される。聖書を読むことや研究することを怠ることは、霊的な飢餓をもたらす。」（わたしたちの高い召し 209）

個人的な復習問題

1. イスラエルの子らはどのような種類のことに苦情を言いましたか。これはどのように信仰の欠如を表していましたか。
2. わたしが周囲の困難や悪に焦点を合わせるとき、何を忘れているのですか。
3. わたしがエジプトの食物を食べ、その習慣に従うとき、何が起きますか。なぜわたしは健康であるように、それほど懸念すべきなのですか。
4. マナの供給は、どのように神の民に安息日の神聖さを印象づけましたか。
5. わたしがいみ言葉の研究によって自らを命のパンで満たすとき、わたしに何が起きますか。なぜこのパンを毎日食することがわたしにとって非常に重要なのですか。

第一安息日献金 世界の災害救済のために

「どうか、はどのように翼もちたいものだ。そうすればわたしは飛び去って安きを得るであろう。…わたしは急ぎ避難して、はやてとあらしをのがれよう」(詩篇 55:6, 8)。

大風のあらし、暴風雨、地震、事故、洪水、飢饉、そして火事一次々と続きます。さらにこのような災害が見えかけているでしょうか。

「テストと精練の日がわたしたちに迫っている。もっとも顕著な性格のしるしが、洪水に、ハリケーンに、竜巻に、雲の破裂に、陸海の惨事に表れている。それは万事の終わりが近づいていることを宣布している。神の裁きが世界に下りつつある。それによって人々が、キリストが速やかに来ようとしておられるという事実が目覚めることができるためである。」(ビュー・アンド・ヘラルド 1892 年 11 月 8 日)

「陸海の事故や惨事に、はなはだしい大災害に、激しい竜巻や恐ろしい雹、嵐、洪水、低気圧、高波、また地震一至る所に、何千ものかたちで、サタンは自分の力を発揮している。彼は熟している収穫物を一掃し、飢饉と苦悩が後に続く。彼は空気に致命的なウイルスをまきちらし、幾千もの人々が疫病に滅びる。災害はますます頻繁に破滅的になっていく。破滅は人にも獣にも及ぶであろう。」(同上 1912 年 3 月 14 日)

このように大争闘がわたしたちの地球でますます激しくなるとき、神は苦しむ人類のためにわたしたちが何をするよう望んでおられるでしょうか。「人よ、彼はさきによい事のなんであるかをあなたに告げられた。主のあなたに求められることは、ただ公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩むことではないか」「いつくしみを喜ばれる」神です(ミカ 6:8; 7:18)。

災害の時に、苦しむ人類の苦悩は憐れみの行為を求めて叫びます。裸の者に着せ、飢えている者に食べさせ、倒壊した建物のがれきを修復し、癒やしの軟膏を傷ついている人に塗ることです。緊急な助けのために、多くの資金が要求されています。ただ皆さんの惜しみない援助によってのみそれが可能です。この必要に惜しみなく捧げる人々は十分に報われるでしょう。なぜなら、「あわれみ深い人たちは、さいわいである、彼らはあわれみを受けるであろう」(マタイ 5:7)。

世界総会執事職及び福祉支部のために



神はご自分の民のために備えられる

「しかしモーセの手が重くなったので、アロンとホルが石を取って、モーセの足もとに置くと、彼はその上に座した。そしてひとりはこちらに、ひとりはあちらにいて、モーセの手をささえたので、彼の手は日没までさがらなかった。」(出エジプト記 17:12)

「自分の諸手が弱くなるときに、それらを強め、信仰と祈りによって支えてくれる忠実なアロンとホルのいる牧師は幸いである。そのような援助は、キリストの僕たちをその働きにおいて支える力強い助けとなり、しばしば真理のみ事業を栄光にかがやかし勝利させるのである。」(教会への証 4 巻 531)

参考文献： 人類のあけぼの上巻 344-348

日曜日

3月1日

1. 民が再びつぶやく

- a. イスラエルの子らは、レビデムに到着したとき、どのようにモーセに対してつぶやきましたか。それはなぜでしたか (出エジプト記 17:1-3)。

「主は彼らの行路を水のないところへ導かれた。それは彼らを試すため、すなわちご自分の力の証拠をそれほど数多く受けた後で、彼らが苦難にあつてご自分に向かうことを学んだか、また彼らが神に対する過去の反逆的なつぶやきを悔い改めたかどうかを調べるためであつた。彼らはモーセとアロンが利己的な動機で彼らをエジプトへ連れてきて、そこで彼らとその子らを飢え死にさせ、彼らの財産で私腹を肥やそうとしていると責めた。こうすることによってイスラエル人たちは、自分たちが受けてきた間違いのような証拠はただ力に限りのない神からのものであつたが、それを人に帰した。これらの神の力のすばらしい現われを、神は彼らがただご自分へののみ帰し、このお方のみ名を地上で大いなるものとすることを望んでおられた。…神がたえず彼らにご自分の力と栄光と、彼らに対するご自分の保護の間違いのような証拠を与え続けている一方で、もし彼らが荒野からカナンへの道中を予想して、自分たちの試練や逆境において、神に栄光を帰さないのであれば、彼らはカナンの地で定着するとき、祝福と繁栄に囲まれながらも、このお方のみ名を大いなるものとせず、このお方に栄光を帰すことはないであろう。」(教会への証 2 巻 107)

2. 神は備えられる

- a. モーセは彼らのつぶやきを聞いた後、何をしましたか (出エジプト記 17:4; エレミヤ 29:12)。

『悩みの日にわたしを呼べ』と主は、言っておられる (詩篇 50:15)。神は、わたしたちが、自分たちのなやみと欠乏とを神に申し上げ、上からの助けの必要なことをわたしたちが神に訴えることを、神はすすめておられる。また 神は、常に祈るようにお命じになる。困難なことが起こったときにはすぐに、熱心な祈りを心から神にささげなければならない。わたしたちは、しきりに願うことによって、神に対するわたしたちの強い信頼をあらわす。わたしたちのこうした必要感が、熱心に神に祈りをささげさせ、そして天の父は、わたしたちの嘆願を聞いて心をお動かしになる。」(キリストの実物教訓 153)

- b. 神はどの場所に向かって、どのような具体的な指示と共に、モーセを水のために遣わされましたか。水はどのように奇跡的に備えられましたか (出エジプト記 17:5, 6)。

「困ったモーセは、主にむかって、『わたしはこの民をどうすればよいのでしょうか』と叫んだ。彼は、エジプトで奇跡を行なったつえをとり、イスラエルの長老たちを連れて、民の前に行くように命じられた。主は、モーセにこう言われた。『見よ、わたしはホレブの岩の上であなたの前に立つであろう。あなたは岩を打ちなさい。水がそれから出て、民はそれを飲むことができる』(出エジプト記 17:4,6)。モーセがそのようにすると、水が生きた水の流れとなってわき出て、宿営に豊富に供給することができた。神は、モーセにそのつえをふり上げて、エジプトの災いのように、何か恐ろしい災いを、このようなつぶやきを扇動した人々の上に下すようにとお命じにならないで、大きなあわれみをもって、このつえを彼らの救いをもたらす道具とされたのであった。』(人類のあけぼの上巻 345～346)

- c. モーセはこの場所に、他にどの名前をつけましたか。なぜ彼はその名をつけ直したのですか (出エジプト記 17:7)。

「人々は、のどのかわきのあまり、神を試みて、『主はわたしたちのうちにいらっしゃるかどうか』(出エジプト記 17:7) —『もし神がわたしたちをここにつれてこられたのだったら、なぜパンと同じように水をお与えにならないのか』と言った。このような不信の表明は罪悪であって、モーセは神の刑罰が彼らの上にくだることを恐れた。そこで彼はその場所の名をマッサ (試み)、また、メリバ (小言) と呼んで、彼らの罪の記念とした。』(同上 346)

3. キリストの象徴

a. 打たれた岩は、どなたの型でしたか（コリント第一 10:4）。

「モーセは岩を打ったが、モーセのかたわらに立って、いのちの水を流れさせたのは、雲の柱におおわれていた神のみ子であった。モーセと長老たちばかりでなく、離れて立っていた会衆のすべてが主の栄光を見た。しかし、もし雲がとり除かれたら、彼らはその中にとどまっておられるおかたの恐るべき輝きで殺されたであろう。」（人類のあけぼの上巻 346）

b. 他にどのような意味で、イエスは岩として言及されていますか（詩篇 94:22; マルコ 12:10）。

「神は、限りない知恵をもって、隅のおや石をえらび、それをご自分で据えられた。神はそれを『堅くすえた隅の石』と呼ばれた。全世界の人々が彼らの重荷と不幸をその上にのせても、この石はそれらの全部にもちこたえるのである。彼らがその上に築いても絶対に安全である。キリストは『試みを経た石』である。主は、ご自分に信頼する者を決して失望させられない。主はどのテストにも耐えられた。主は、アダムの不義と、その子孫の不義の圧力に耐え、悪の勢力に打ち勝って余りある者となられた。主はすべての悔い改める罪人がのせる重荷に耐えられた。不義の心は、キリストのうちに救いをみいだした。主は『堅くすえた隅の石』である。主によりたのむ者はみな絶対に安全である。

生ける石であられるキリストにつながることによって、この隅のかしら石の上に築く者はみな生ける石となるのである。多くの人々が自分自身の努力によって切られ、磨かれ、美しくされる。しかし彼らは、キリストとつながっていないので、生ける石となることはできない。このつながりがなければ、だれも救われない。われわれのうちにキリストのいのちがないならば、試みの嵐に耐えることができない。われわれの永遠の安全は、堅くすえられた隅のかしら石に築くことにかかっている。」（各時代の希望下巻 43-45）

c. 打たれた岩から流れた水によって、何が象徴されていましたか（ヨハネ 4:10-14; 7:37-39）。

「生ける水を飲む者はいのちの泉となる。受ける者が与える者となる。魂のうちにあるキリストの恵みは、砂漠の中の泉のようなもので、それはわきあがってすべての人を元気づけ、いまにも死にそうになっている人々にいのちの水を飲みたいと熱望させるのである。」（各時代の希望上巻 234）

4. アマレク人との戦い

a. 次にどの危険がイスラエルの人々を脅かしましたか (出エジプト記 17:8)。

「イスラエル人が従わず、神から離れたことによって、厳しい状況に導かれ、逆境に苦しむことをゆるされた。彼らを低くし、彼らが自分の悩みと苦悩のうちに神を求めるように導くために、彼らの敵は彼らと戦争をすることが許された。『ときにアマレクがきて、イスラエルとレビデムで戦った』。これはイスラエルの子らが感情のままに反逆的につぶやき、神が荒野からカナンの地を通じて彼らを導くために資格を与え任命した自分たちの指導者に対して不正で理にかなわない苦情を申し立てた直後に起こった。」(教会への証 2 巻 106, 107)

b. 神はどのようにアマレク人を打ち負かされましたか (出エジプト記 17:9-12)。

「アマレク人が荒野でイスラエルの野営を攻撃するために来たとき、モーセは自分の民が遭遇戦の用意ができていないことを知っていた。彼はヨシュアを一団の兵士たちと共に敵に応じるために遣わし、一方彼自身は、アロンやホルと共に戦場を見渡す丘の上に自分の持ち場を取った。そこで神の人は、この問題をただ一人彼らに勝利を与えることのおできになるお方の前に持ち出した。天に向かって手を伸ばし、モーセはイスラエル軍の成功のために熱心に祈った。彼の両手が上に伸ばされている間は、イスラエルが敵に対して優勢になるのが見て取れた。しかし、疲れて両手が下がってくると、アマレク人が勝つのであった。アロンとホルは、勝利が完全に十分にイスラエルの側にもたらされ、彼らの敵が戦場から追い出されるまで、モーセの両手を持ち上げていた。

この事例は時の終わりに至るまで全イスラエルに対して、神が神の民の力であられるという教訓となるべきである。イスラエルが勝利したとき、モーセは自分の両手を天に向かってのべし、彼らのためにとりなした。そのように神のイスラエル全体が勝利するとき、それは大能者が彼らの問題をとりあげ、彼らのために彼らの戦闘を戦って下さるからである。モーセはイスラエルが活動しない間は、神が彼らの敵に勝って下さるようにと求めなかったし、そうは信じなかった。彼は自分の全軍を進ませ、彼らの設備も彼らも準備させて送り出し、それからこの問題を祈りのうちに全く神に委ねた。山の上でモーセは主に嘆願し、その間ヨシュアは下で勇敢な従者たちと、イスラエルと神の敵に対処し、撃退するために最善を尽くした。」(同上 4 巻 530, 531)

5. アマレク人が征服される

- a. アマレク人が打ち負かされた後、彼らにどの宣告がなされましたか（出エジプト記 17:14; 申命記 25:17-19）。

「アマレク人は、モーセがエジプト人の前で行なった不思議なわざをちょう笑し、周囲の国民の恐怖をあざけた。彼らは、ヘブル人をひとりも残さず滅ぼすことを彼らの神々にかけて誓い、イスラエルの神は無力で自分たちに抵抗できないといばった。彼らは、イスラエル人から害を受けたこともなければ、脅かされたこともなかった。彼らの攻撃は全然挑発されたものではなかった。アマレク人がイスラエル人を滅ぼそうとしたのは、イスラエルの神に対する憎しみと反抗を示すためであった。…アマレク人の男たちが、疲労して全く防備のないイスラエルの隊列を襲ったとき、彼らは自分たちの国民の運命を決定した。神の守護は、神の子らの最も弱い者たちの上にあった。天の神は、彼らに対するどんな残虐な行為も圧迫も見のがされない。神を愛し、おそれるすべての者たちの上に、神のみ手は盾としてさし出される。人間はそのみ手を撃たないように気をつけるがよい。なぜなら、そのみ手は正義の剣をふるうからである。」（人類のあけぼの上巻 348）

- b. イスラエルがアマレク人によって迫害されたように、今日同様な方法で、わたしたちが迫害されるとき、何を覚えているべきですか（マタイ 5:11, 12）。神は自身自身の兄弟を迫害する者をどのようにご覧になりますか。

「もし神がこのように異教国家の残酷さを罰せられたのであれば、神の民だと公言しながら、神のみ事業において疲れ果て弱っている自分自身の兄弟に戦いをしかける人々を、どのようにみなされるはずであろうか。」（教会への証 5 巻 245）

個人的な復習問題

1. 試練や逆境は、イスラエル人の場合もそうであったように、今日どのようにわたしたちのためのテストとなりますか。
2. 困難な状況でわたしたちが真剣に祈るとき、これは何を表しますか。
3. 生ける石になる秘訣は何ですか。
4. わたしたちが時々、困難な場所に導かれるのは、何が原因ですか。
5. どの罪が、アマレク人の運命に印を押しましたか。わたしたちは時に、どのように同じ罪を犯しますか。

エテロの訪問

「モーセのしゅうとは彼に言った、『…すべての民のうちから、有能な人で、神を恐れ、誠実で不義の利を憎む人を選び、それを民の上に立てて、千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長としなさい。』（出エジプト記 18:17, 21)

「モーセに対するご自分の指示の中で、主は諮問役として重要な立場に占めるべき人々の品性を非常にはっきりと説明なさった。」（牧師への証 341)

参考文献： 祝福の山 15-23

日曜日

3月8日

1. 幸福な再会

- a. アマレク人との戦いの後、だれがモーセを訪れましたか。そして彼は自分と共にだれを連れてきましたか（出エジプト記 18:1-5）。

「イスラエル人が、そのとき宿営していた場所からあまり遠くないところに、モーセの義父エテロの家があった。エテロはヘブル人の救済について聞いていたので、このとき彼らを訪問して、モーセにその妻とふたりの子供を返してやろうとして出かけて行った。」（人類のあけぼの上巻 348, 349)

- b. エテロがモーセに自分が訪問する旨を伝言したとき、モーセは直ちにどうしましたか（出エジプト記 18:6, 7）。

「大指導者モーセは彼らの到着を使者たちから知らされると、喜んで出迎え、まず、対面のあいさつをすませて、彼らを自分の天幕へ案内した。モーセは、イスラエル人をエジプトから導き出す危険な仕事をする間、自分の家族を送り返していたのであったが、今、彼は、再び家族と会って安心し、喜ぶことができた。」（同上 349)

2. 良き知らせを伝える

- a. モーセはしゅうとに何を告げましたか (出エジプト記 18:8)。
- b. エテロは良き知らせに対して、どのように反応しましたか (出エジプト記 18:9-12)。

「彼はエテロに、イスラエルに対する神の不思議な導きについて語った。エテロは喜んで、主を祝福し、モーセや長老たちと共に犠牲をささげ、神のあわれみを記念して厳粛な祝宴を開いた。」(人類のあけぼの上巻 349)

- c. モーセとエテロの間で分かち合ったこの時のことを考えると、わたしたちが教会の中でも外でも、他の人々と接触する際に、何を覚えているべきですか (詩篇 105:1; テサロニケ第一 5:18)。

「神がご自分の民を取り扱われる方法は、しばしば繰り返されるべきである。なんとしばしば昔のイスラエルに対する主の取り扱いのうちに主によって道標が立てられたことであろう。彼らが過去の歴史を忘れることがないように、このお方はモーセにこれらの出来事を歌にするようにとお命じになった。こうして親がそれらを自分の子供たちに教えることができるためであった。彼らは記念を集めて、それらを見えるところに並べるべきであった。それらを保存するために特別な努力が払われた。こうして子供たちがこれらの事柄について尋ねるとき、物語全体を繰り返すことができるためであった。こうしてこのお方の民の保護と救出における神の摂理的な取り扱い及び著しいいつくしみと憐れみが思いに留められた。…この世代のご自分の民のために、主は不思議をなす神として働いてこられた。…わたしたちはしばしばこのお方のいつくしみを数え、その驚くべきみわざのために讃える必要がある。…

わたしたちはしばしば記念の柱、すなわちわたしたちを慰め、また破壊者の手からわたしたちを救うために主がなしてこられたことを思い出させるものを眺めよう。自分たちの記憶に神がわたしたちに示して下さったやさしい憐れみをことごとく鮮明に保っておこう。このお方が拭って下さった涙、このお方が和らげて下さった痛み、取り除いて下さった不安、一掃して下さった恐れ、満たされた必要、授けられた祝福—こうしてわたしたちの残りの旅路の間、わたしたちの前にあるすべてのことに対して自らを強めよう。」(闘争と勇氣 364)

「絶えず神のあわれみを受けていながら、なんと感謝を言い表わすことが少なく、神がわたしたちのためになされたことを賛美することのなんと少ないものであろう。」(キリストへの道 142)

3. エテロが助言する

- a. エテロはモーセの裁判の働きに関して、何に気づきましたか。またモーセの反応は何でしたか（出エジプト記 18:13-16）。

「エテロは、宿営に滞在していたとき、モーセに負わされている重荷が重いことをすぐにさとした。無知で、訓練されていない大群衆の中に、秩序と規律を保つことは実にたいへんな仕事であった。モーセは、人々の指導者また行政官として認められていて、人々の全般的な利害問題と義務のことだけでなく、人々の間に生ずる論争まで彼のところへ持ち込まれていた。モーセはそれを許していた。というのは、そのことによって、彼が、『神の定めと判決を知らせるのです』と言ったように、彼らに教える機会が与えられたからである。しかし、エテロはこれに抗議して、言った。」（人類のあけぼの上巻 349）

- b. この信心深い祭司は、そのとき義理の息子にどのような助言をしましたか（出エジプト記 18:17-23）。

- c. モーセの重荷を共に負うべき人を選択する際、訪問者が強調した四つの主な資格は何でしたか（出エジプト記 18:21（前句））。学校の管理者を選ぶために与えられたどの勧告が、今日働きの様々な支部においてちょうどあてはまりますか。

「学校が設立されるところではどこでも、賢明な管理者を用意しなければならない。『有能な人で、神を恐れ、誠実で不義の利を憎む人』、すなわち自分の立場の様々な責任において最善を尽くす人を備えなければならない。彼らは事業をする能力があるべきであるが、さらにもっと重要なことは彼が神と共にへりくだって歩み、聖霊に導かれることである。そのような人は神に教えられ、彼らは祈りの人である自分の兄弟たちの勧告を求める。

わたしたちの学校の管理者は純粹な動機をもって労しなければならない。彼らの私心のなさによって、彼らは大きな収穫畑の他の部分も、彼らの保護の下におかれた学校のために備えられたのと同じ施設を必要としていることを覚えるであろう。」（教会への証 6 巻 215）

4. 助言に従う

- a. モーセはどのように義父の賢明な勧告に応じましたか（出エジプト記 18:24, 25）。

「主は、モーセに大きな栄誉を与え、彼の手によって不思議なわざを行なわれた。しかしモーセは、自分は人々を教えるために選ばれたのだから、自分自身は人から教えられる必要はないとは考えなかった。イスラエルの選ばれた指導者である彼は、ミデアンの敬虔な祭司の助言を喜んで聞き、その計画を賢明な措置として採用した。」（人類のあけぼの上巻 350）

- b. これは自分よりも年配でもっと経験のある人々をどのように扱うべきかについて、わたしたちに何を教えますか（レビ記 19:32; 箴言 16:31）。

「神を代表する人々―神の代わりに語り行なうべく召されている牧師や教師や親に対して尊敬を示さなければならない。彼らに対する尊敬を通して、神のみ名はあがめられるのである。

神はまた特に年老いた人々に対してやさしい尊敬を示すようにお命じになる。『しらがは栄えの冠である、正しく生きることによってそれが得られる』（箴言 16:31）と神は仰せになっている。それは戦いをたたかい、勝利をかち得、重荷に耐え、誘惑に抵抗したことを物語っている。それは休息に近づく疲れた足、まもなくあく座席を物語っている。このことを子供たちに考えさせるとき、彼らは礼儀と尊敬をもって年老いた人々の道を和らげるであろう。『あなたは白髪の人の前では、起立しなければならない。また老人を敬い、あなたの神を恐れなければならない』（レビ 19:32）との命令を心に留めるとき、彼らの若い人生には恵みと美がもたらされるであろう。」（教育 288, 289）

- c. 権限に基づいて推奨された代表者の結果は何でしたか（出エジプト記 18:26）。

「勧告は受け入れられた。それはモーセの肩の重荷を軽くしたばかりでなく、その結果、人々の間にもっと完全な秩序が確立された。」（人類のあけぼの上巻 350）

5. 指導者のためのモーセの資質

- a. モーセの下にいる人々にしかるべき資質を持つように要求されたように、モーセの特別な資質は何でしたか。彼はどの重要な特質を持っていましたか（民数記 12:3）。

「モーセは謙遜な人であった。神は彼を地上で最も柔和な者と呼ばれた。彼は寛容で、気高く、良く均整が取れていた。彼は欠陥のある人ではなかった。そして彼の資質は単に半分発達していただけではなかった。彼は自分の人類同胞を説得することができた。なぜなら彼の生涯そのものが神を助け手とするときに人がどのようなことができるか、また何をなし遂げることができるかの生きた実例であり、また彼が他の人々に教えたこと、彼が彼らになつて欲しいと望んだこと、神が彼に要求されたことの実例だったからである。彼は心から語り、それは心に届いた。彼は知識に熟達していたが自分の深い同情を表すのに幼子のように単純であった。顕著な生来の才能を与えられながら、彼は自分の周りにいるすべての人の必要、また悪い状況にあつて注意を要する事柄を即座に判断することができた。そして、彼はそれらをおおりにしなかった。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] I 巻 1113）

- b. イエスによって、柔和な者にどの特別な約束が与えられていますか（マタイ 5:5）。

「柔和は貴重なクリスチャンの特質である。キリストの柔和と心の低さはキリストのくびきを負うことによってのみ学ぶことができる。…そのくびきは完全な屈服を意味する。」（天国で 236）

個人的な復習問題

1. わたしたちは今日働きにおいて指導者を選ぶときに、どの資質を求めるべきですか。これらの資質に欠けている人々は選ばれるべきですか。
2. 責任のある地位に人を選ぶ際、事業を行う能力以上にもっと重要なものは何ですか。
3. わたしたちが他の人々と接触する際に、何をしばしば語るべきですか。なぜですか。
4. わたしたちは、信仰にある自分たちの牧師、両親、教師をどのように取り扱うべきですか。それはなぜですか。
5. なぜ、モーセの説得はそれほど強力だったのですか。これはわたしたちに何を教えますか。

神がご自分の民に語られる

「主は山で火の中から、あなたがたと顔を合わせて語られた。」(申命記 5:4)

「律法が語られたとき、主、すなわち天地の創造主は、山上で火と煙に囲まれて、ご自分の御子のかたわらに立っておられた。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 1 卷 1103)

参考文献： 人類のあけぼの上巻 349-356

日曜日

3月15日

1. シナイに到着する

- a. エジプトを出発してから、イスラエル人はどれくらいかかってシナイ山に来ましたか(出エジプト記 19:1, 2)。彼らにどのような啓示をしようとしておられましたか。

「四方の広大な、かわいい山は、その孤独な雄大さの中にあって、永遠の存在と威厳を語っているように思えた。ここで、心は厳粛と畏敬の念に打たれた。人々は『てんびんをもって、もろもろの山をはかり、はかりをもって、もろもろの丘をはか』られたおかたの前にあって、自己の無知と弱さを思わせられた(イザヤ 40:12)。ここでイスラエル人は、かつて神が人類に示された最もすばらしい啓示を受けるのであった。ここに主はご自分の民を集めて、その聖なる律法をご自身の声で宣言することによって、ご自分の戒めの神聖さを彼らに印象づけられるのであった。彼らは、墮落した奴隷生活を送り、偶像礼拝と長い間接触していたために、その影響を習慣と品性に刻まれていたので、徹底的な大改革が彼らのうちに行なわれることになった。神は、ご自身を彼らに知らせることによって、彼らをもっと高い道徳的水準に引き上げるために働いておられた。」(人類のあけぼの上巻 350, 351)

- b. 山上で神は、イスラエルと同様にまた全時代を通じたご自分の民への願いを伝えるために、モーセにどのような美しい言葉を語られましたか(出エジプト記 19:3-6)。

2. 神に会う備えをする

- a. モーセが神の民に、神が自分に語られたことを伝えた後、民はどのように答えましたか (出エジプト記 19:7-9)。

「モーセは宿営にもどって、イスラエルの長老たちを呼び集め、神の言葉を彼らにくりかえした。彼らは『われわれは主が言われたことを、みな行います』と答えた (出エジプト記 19:8)。こうして彼らは、神と厳粛な契約を結び、神を彼らの統治者として受け入れることを誓い、これによって、彼らは特別な意味で、神の権威の下にある民となった。」(人類のあけぼの上巻 352～353)

「この誓いこそ、この終わりの時代に神の民がなすべきものである。彼らが神に受け入れられるかは、このお方との契約の条件を忠実に果たすことにかかっている。神はご自分の契約に、ご自分に従うすべての人を含めておられる。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 1 巻 1103)

- b. 神がご自分の律法を提示するとき、神のご臨在の前に現われるために、民はどの準備を要求されましたか (出エジプト記 19:10-15)。教会で神のご臨在の前に現われる前に、わたしたちは何に気をつけるべきですか。

「美しいエデンとその中のすべての美しいものを創造された偉大にして力ある神は、秩序の神であられる。そしてこのお方はご自分の民のうちに秩序と清潔をお求めになる。…

神の聖なる御前に来るとき、このお方の前に出る人々について不注意や乱雑さはあってはならない。なぜであろうか。この注意深さの目的はみな何であろうか。それは単に人々を神に推奨するためであろうか。それは単にこのお方の認可を得るためであろうか。わたしに与えられた理由はこれである。すなわち、正しい印象が民に与えられるためである。もし聖なる職務について奉仕している人々が、彼らの装いやふるまいに注意深さと神への敬神を表さないとしたら、民は神とその聖なる礼拝に対する畏敬や崇敬を失ってしまう。もし祭司が神のご臨在の前に来るとき非常に気をつけ、非常に厳密であることによって、大いなる神への敬神を表すなら、それは民に神とそこでご要求について高められた概念を与える。それは彼らに神が聖なるお方であり、このお方の働きが神聖であり、またこのお方の働きに関わるすべてのものが聖でなければならないこと、すべて不純や不潔といったものがないようにしなければならないこと、そしてすべての汚れは神に近づくすべての人から取り去られなければならないことを示したのであった。」(教会への証 2 巻 611, 612)

3. 神の御前で

- a. 神がご自分の民に語られるために天から下って来られたときの光景の尊厳と厳粛さを述べなさい (出エジプト記 19:16-20; 申命記 33:2, 3)。

「三日めの朝、民のすべての目が山の方へ向けられると、その頂上は濃い雲でおおわれ、それがますます濃く暗くなって下のほうへくだり、ついに全山が暗黒と恐るべき神秘につつまれた。そのとき、ラッパの音が聞こえて民を神との会合に呼び集めたので、モーセは彼らを山のふもとへ導いた。濃い暗黒の中からあざやかないはずまがひらめき、雷鳴が周囲の山々に反響をくりかえした。……

するとかみなりはやみ、ラッパの音も聞こえず、大地は静かになった。厳粛な沈黙の瞬間があった。そのとき神のみ声が聞こえた。つき従った天使たちに囲まれて、山の上に立たれた主は、ご自身をおおっている濃い暗黒の中から語って、ご自分の律法をお知らせになった。」(人類のあけぼの上巻 354)

「イスラエルの子らにご自身のみ声で十誡を宣布なさることによって、神はその重要性を提示された。恐るべき壮大さの中で、このお方は世の統治者としてのご自分の尊厳と権威をお知らせになった。こうしたのは、ご自分の律法の神聖さとそれに従う重要性を民に印象づけるためであった。」(教会への証 8 巻 198)

- b. モーセが再び山頂に召されたとき、主は彼に何と仰せになりましたか (出エジプト記 19:21-25)。

「神の臨在がシナイで現わされたとき、主の栄光は全イスラエルの目の前で焼き尽くす火のようであった。(人類のあけぼの上巻 400)

「神は無限の愛と憐れみの方であるが、またご自身のことを『焼きつくす火、ねたむ神』だと宣言しておられる。」(ビュー・アノド・ヘアルド 1900 年 8 月 14 日)

「罪にとって、それがどこにみいだされようと、『わたしたちの神は、実に、焼きつくす火である』(ヘブル 12:29)。神のみたまは、その力に服するすべての者のうちにあつて、罪を焼きつくす。しかしもし人が罪に執着するなら、その人は罪と一体となる。そのとき罪を滅ぼす神の栄光は、当然その人も滅ぼしてしまうのである。〔各時代の希望上巻 110〕

4. 愛の律法

- a. シナイ山で律法を語られたのはどなたですか。このお方は後に律法をどうされましたか (申命記 5:4, 5; 9:10)。

「律法は神のご品性の写しであり、だれも理解しそこなう必要はない。石の板に神の指によって記された言葉は非常に完全に、神の民に関するこのお方のみ旨を表しており、だれも間違いを犯す必要がない。」(レクテッド・メッセージ 1 巻 225)

- b. 律法の背後にある根底の原則は何ですか (マタイ 22:37-39)。

「しなさい、してはならないという十誡は、もしわたしたちが宇宙を支配する律法に従順を捧げるならば、わたしたちに保証されている十の約束である。『もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである』。ここに神の律法の要点がある。アダムの子供の息子むすめのための救いの条件がここに説明されている。

シナイ山でキリストによって語られた十の聖なる規則は、神のご品性の啓示であり、このお方が全人類という嗣業に対して司法権を持っておられるという事実を世に知らせた。人に提示しうる最大の愛の十の規則というこの律法は、約束のうちに天から魂に語られる神のみ声である。『こうしなさい、そうすればあなたはサタンの主権と支配権の下へ来ることはない』。この律法には、否定的にみえたとしても、否定的なところはない。それは、こうしなさい、そうすれば生きる、というものである。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 1 巻 1105)

- c. 本物のクリスチャンは、どのように自分たちの心に神の愛があることを示しますか (ヨハネ第一 5:2, 3; ローマ 13:10)。

「魂にあるイエスの愛はすべての憎しみ、利己心、また妬みを払いのける。なぜなら、主のおきてでは完全であって、魂を改心させるからである。神の律法への従順には健康がある。従順な者の愛情は神を慕い求める。主イエスを仰ぎつつ、わたしたちは互いに励まし、仕える。キリストの愛がわたしたちの魂の中に広く注がれ、わたしたちの間に何の不和も紛争もないのである。」(同上)

「愛の律法は、心と魂と肉体を、神と人類同胞への奉仕にささげるように要求している。この奉仕によって、われわれは、他人への祝福となり、同時にまた、われわれ自身の上にも、最も大きな祝福をもたらすのである。」(教育 5)

5. 変わらない律法

- a. 律法を民に宣布した効果は何でしたか (出エジプト記 20:18-20)。モーセにはどのような効果がありましたか。(ヘブル 12:20, 21)。

「イスラエルの人々は、恐怖に圧倒された。神のおことばの恐るべき力に、彼らのふるえる心は耐えられないように思われた。なぜなら、神の大いなる正義の法則が、彼らの前に示されたとき、彼らは、聖なる神の御目にうつる罪の憎むべき性格と自分自身の不義を、これまでになかったほどにさとったからである。彼らは恐れおののいて、山から遠く離れて立った。」(人類のあけぼの上巻 361, 362)

- b. この律法を変える必要がありますか。イエスはそれを変更なさいましたか (詩篇 111:7, 8; マタイ 5:17-19)。

「天の聖所にある神の律法は、大いなる実体であって、石の板に刻まれ、モーセによって五書の中に記録された戒めは、その正確な写しである。……神の律法は、神のみこころの啓示であり、神の品性の写しであるから、『天における忠実な証人のように』(英語訳)永遠に続かなければならない。一つとして廃された戒めはない。一点、一画も変更されてはいない。『主よ、あなたのみ言葉は天においてとこしえに堅く定まり、』『すべてのさとしは確かである。これらは世々かぎりなく堅く立ち、』と詩篇記者は言っている(詩篇 119:89、111:7.8)。(各時代の争闘下巻 152)

個人的な復習問題

1. シナイ山を囲む自然界の美しさは、イスラエル人に、どのような影響を与えましたか。なぜ自然の中で定期的に過ごすことが非常に重要なのですか。
2. 神はわたしが日ごとに神と、どの誓いをなすことを望んでおられますか。
3. イスラエルの子らに向かって十誡を宣布されたとき、なぜご自身のみ声をもって語られたのですか。
4. 愛の律法、すなわちイエスの愛を魂の中に持つ結果は何ですか。
5. 律法がなぜ不変であるかを説明しなさい。

防壁

「おのが道を全くして、主のおきてに歩む者はさいわいです。」(詩篇 119:1)

「神の律法の遠大な要求について理解のある者は、罪の悪質さをいくぶんか理解する。そして神のご要求についての概念が高められれば高められるほど、自分に与えられた許しへの感謝も大きくなるのである。」(わたしたちの高い召し 137)

参考文献： 人類のあけぼの上巻 356-362

日曜日

3月22日

1. 創造主を認める

a. 安息日はいつ人類に与えられましたか。安息日の目的は何ですか(創世記 2:1-3)。

「安息日は、……神を天地の創造者としてさし示すことによって、真の神とすべての偽りの神とを区別している。」(人類のあけぼの上巻 358)

b. 真の安息日遵守においていくつかの全般的な指針は何ですか(イザヤ 58:13)。

c. なぜわたしたちはしばしば、安息日に自分の言葉を守ることに失敗するのですか(マタイ 12:34)。

「安息日をきよく守るためには、世俗的なことがらを心に思いめぐらすことさえしてはならない。」(人類のあけぼの上巻 359)

「しかし安息日を聖とするためには、人は自ら聖でなければならない。信仰によって彼らはキリストの義にあずかる者とならねばならない。」(各時代の希望上巻 364)

2. 神を第一とする

- a. 神は律法の一番はじめに、律法的重要性を示す何を表明なさいましたか（出エジプト記 20:3）。わたしたちは自分の生活において、どのように何かを第一に優先していることを示しますか。わたしたちは他にどのような種類の神々に仕えることがありますか。

「エホバ、すなわち永遠に自存し、創造されたおかたでなく、自らすべてのものの根源であって維持者であられる主だけが、最高の尊敬と礼拝をお受けになる資格がある。人間は、主以外のなにものをも第一に愛して奉仕することを禁じられている。神に対するわれわれの愛を減少させたり、神にささげるべき奉仕をさまたげるようなものを心にいだくときに、われわれはそれを自分の神としているのである。」（人類のあけぼの上巻 356）

- b. わたしたちの態度は神に対してどうあるべきですか（マルコ 12:30; 申命記 10:12）。

「キリストの奉仕は、人全体一心、思い、魂、力を要求する。このお方は、二心はお受け入れにならない。このお方はわたしたちが最善を尽くすことを期待される。」（この日を神と共に 161）

- c. もしわたしたちが第一位を占めておられる場所でこのお方との関係に入ろうとすれば、どの態度が重要不可欠ですか（ガラテヤ 5:6）。

「キリストとの生きたつながりに導き入れることのできる信仰は、わたしたちの側で最高の優先、完全な愛情、全き献身を表明する。…それはキリストに従う者の生活において、神の戒めへの真の従順という結果をもたらす。なぜなら、神への愛と人への愛がキリストとの生きたつながりの結果だからである。」（天国で 108）

「〔真の信徒〕はキリストのうちに宿り、このお方から自分の栄養を引き出す。

この霊的な関係は、個人的な信仰を働かせることによってのみ確立することができる。この信仰はわたしたちの側で最上の優先、完全な信頼、全き献身を表現しなければならない。わたしたちの意志は完全に神のみ旨へ明け渡されなければならない。わたしたちの感情、願望、関心、榮譽は、キリストの御国の繁栄とこのお方のみ事業の榮譽と同一になり、わたしたちは絶えずこのお方から恵みを受け、そしてキリストはわたしたちからの感謝を受け入れて下さるのである。」（今日のわたしの生涯 11）

3. 利己的な願望を捨て去る

- a. 貪欲や姦淫といった深刻な罪へと導く罪深い願望は、どこで始まりますか（箴言 4:23; マタイ 15:19; 22:37）。

「誘惑者サタンはわれわれに悪をなすように強制することはできない。心がサタンの支配に屈しないかぎり、サタンはそれを支配することができない。サタンがわれわれの上に彼の力を働かせることができる前に、意志が同意し、信仰の手がキリストから離れねばならない。しかしわれわれの心のうちに宿っているあらゆる罪の思いはサタンに足場を与える。われわれが神の標準に達していない点はどれもみな開かれた戸であって、サタンはそこからはいつてきてわれわれを誘惑し、破壊させるのである。われわれの側で失敗したり、敗北したりするたびに、われわれはサタンがキリストを非難する機会を与えるのである。」（各時代の希望上巻 138, 139）

「第十条は、あらゆる罪の根絶をはかるもので、罪の行為が生じる根源の利己的欲望を禁じている。神の律法に従って、他人の所有に対してよこしまな欲望をいだかないものは、同胞に対して悪い行為を犯すことはしないであろう。」（人類のあけぼの上巻 361）

- b. 戦場が思いの中にあることを悟るとき、わたしたちは何をすべきですか（ピリピ 2:5-8; 黙示録 3:20）。

「イエスは人と神との間でとりなしができるために人となられた。…それはこのお方が、サタンの魅惑的な誘惑を通して人がエデンで失ってしまった本来の思いに人を回復することができるためであった。」（彼を知るために 291）

「改心と変化によって、人はキリストの思いを受けなければならない。」（同上 134）

- c. 第七条への従順は、どれほど遠くまで及びますか（マタイ 5:27, 28）。

「この戒めは、不純な行為だけでなく、好色的な思いや欲望、あるいは、そうしたものを刺激する行為を禁止している。外にあらわれた生活だけでなく、ひそかな意図や心の感情においても、純潔が要求される。キリストは神の律法について深遠な義務をお教えになり、邪悪な思いや目つきは、不法な行為と全く同様に罪であると言われた。」（人類のあけぼの上巻 360）

4. 破滅的な思想を拒む

- a. 殺人が芽吹く根は、何ですか（ヨハネ第一 3:15）。他に第六条を守ることには何が含まれていますか。

「命を縮めるすべての不正行為、憎しみとふくしゅうの精神、また、他を傷つける行為を行なわせたり、他が傷つくことを望んだりさせる悪感情を心にいだくこと、（なぜなら、すべて兄弟を憎む者は人殺しだからである）利己的精神をいだいて、貧者や苦しむ者を顧みないこと、健康を害するすべての放縱、また、不必要な消耗、過労に陥ることは、程度の差こそあっても、すべて第六条の違反である。」（人類のあけぼの上巻 360）

- b. 肉の心のどの特徴が憎しみへと導きますか。またどのように、この悪の特質はそれを抱く人々に影響しますか（コリント第一 3:3; 箴言 14:30）。

「ねたみは、誇りから生じる。もし心にねたみをいだけば、それは憎悪となり、ついには、ふくしゅう、殺人を犯させることになる。」（同上下巻 327）

「ねたみはサタンの品性の最も卑劣な特質の一つである。それは他人に非難を投げることによって、絶えず自己を掲げようとする。妬み深い人は自分自身を高めようと考えて、自分の隣人を軽くみなす。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 3 巻 1159）

「ねたみ、嫉妬、そして邪推は、サタンがキリストの品性をみるあなたの視界を妨害しようとする黄泉の影である。こうして悪を眺めることによって、あなたは完全にそれと似た姿に変えられるのである。」（同上 1163）

- c. もしわたしたちが第八条の戒めを守りたければ、わたしたちの正直さはどれくらい遠くにまで及ぶべきですか（コリント第二 8:21）。

「第八条は、…窃盗と強盗を有罪としている。それは日常生活のどんな小さなことがらにも厳密な正直さを要求している。それは商売における不正を禁じ、正当な借金や賃金の支払いを要求している。それは、他人の無知、弱点、不幸につけこんで私腹をこやす行為は、すべて天の書に詐欺として記録されることを宣言している。」（人類のあけぼの上巻 360）

5. 最高の地上の荣誉

a. 何が第五条について、特別ですか (エペソ 6:2; 出エジプト記 20:12)。

「親は、ほかのだれも受けることのできない愛情と尊敬を受ける資格がある。神は、お与えになった子供たちの責任を親に負わせられた。そして、子供たちが幼いころは、親が子供たちに対して、神の立場に立つことを神ご自身が定められた。親の正当な権威を拒む者は、神の権威を拒んでいる。第五条は、子供たちが親を尊敬し、親に従順に従うことを要求しているだけでなく、親を愛し、いたわり、重荷を軽くし、その評判をまもり、老齢の彼らを助け、慰めることを要求している。それは、また、牧師、統治者その他神が権威をおゆだねになったすべての人を尊敬するように命じている。」(人類のあけぼの上巻 359)

「自分の親に対するわたしたちの義務はやむことがない。彼らに対するわたしたちの愛とわたしたちに対する彼らの愛は、年月や距離によって測られることはない。そしてわたしたちの責任は決して脇によけることができない。」(今日のわたしの生涯 278)

「キリストに真に従いたい人々はこのお方に心の中に宿っていただき、そこで最上のお方として王位についていただかなければならない。彼らはこのお方の精神と品性を自分の家庭生活で表し、自分と接触する人々に礼儀と親切を示さなければならない。真理を知っていると公言するが、自分の親に当然捧げるべき敬意と愛情を捧げず、父親と母親にほとんど愛情を表さず、彼らの願いを優先したり、あるいは彼らの不安を取り除こうとすることによって彼らを尊ぶことをしない子供たちが多くいる。」(神の息子娘たち 60)

個人的な復習問題

1. わたしたちはどのようにしてのみ、安息日を清く守れますか。わたしの言葉と行動は何を明らかにしますか。
2. もしわたしがキリストと命に係わるつながりを持つなら、その結果は何になりますか。
3. 罪深い願望を抱き、罪深いことを思い続けているとき、どうなりますか。
4. 妬みとは何ですか。この罪深い特質を抱き続ける結果は何ですか。
5. なぜ両親は、他のだれよりも愛と尊敬を受ける資格があるのですか。

第一安息日献金



1月4日

ブラジルのアマゾン (ARAM)
フィールド本部のために
(4 ページ参照)

2月1日

タンザニアミッションのために
(25 ページ参照)



3月7日

世界の災害救済のために
(51 ページ参照)

